

アセンションと創造主5

地球の未来から来た生命体



地球の未来から来た生命体 目次

- 第1章 地球の未来から来たプレデター型生命体
- 第2章 プレデター型生命体を利用していた創造主
- 第3章 第3回ファースト・コンタクト会議
- 第4章 未来から来た地球外生命体達
- 第5章 「サイレント・メタル」の恐怖
- 第6章 ディセンションした世界の創造主の反乱

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

第1章 地球の未来から来たプレデター型生命体

PART1 襲撃を受けるアシュタールの施設

私達は、創造主の立て直しも行い、このままファースト・コンタクトを実現させ、完全なアセンションを迎えることが出来ると考えていましたが、なかなか私達の思うようには進みません。

アセンションを妨害するほうも、かなり高度な叡智を持っていますので、私達のやりかたを研究して考えもつかない方法で攻撃してきます。

その6月10日の朝、私達は気味の悪い夢で間を覚めました。

ひとつは、日本人の有名な政治や経済界の人達が捕えられている場所の夢です。

その場所には、日本の将来に関わってくる人達や光を持った存在達もたくさん捕らわれている収容所のような場所で、地球外生命体によって管理されています。

夢では、私達のスピリットもその場所に捕えられています。

そしてそこに捕えられている人達のスピリットがコントロールされて、日本の未来が作られているようですが、その未来は原発事故や自然災害によって、重苦しい未来となっています。

私達は、現在アセンションに関わっている問題を夢やビジョンでみる事が出来るようになっていきますので、これは単なる夢やビジョンではなく、アセンションを推し進めているメンバー達が私達のサポートが必要な時に、このような夢やビジョンで知らせてくるのです。

私達は、さっそくアシュタール連合や地球警備隊などを呼び集め、この収容所に向かいました。

そして、捕らわれている人々のスピリットを開放して行きました。

しかし、私達はこの夢と並行するようにもう一つの夢を見ていました。

それは、海の底にある不思議な場所で、軍隊のような訓練がされている訓練所か収容所のような場所です。そこに、私達がいる、誰かに攻撃を受けています。

しかも日本人ばかりを狙って銃のようなもので撃ち殺されているという夢です。

私達は外国人の訓練兵のような人から守ってもらい何とか隠れることが出来て殺されることを免れましたが、その訓練所には多くの日本人の遺体が横たわっていました。

私達は気になって、アシュタールのメンバーを呼び出すと、彼女は青ざめた顔を押しています。

「TAKESHIさん、大変なことがおきてしまいました。

アシュタールが、将来宇宙を守るために活躍する警備隊を訓練していた場所が今朝襲撃されて多くの被害者が出てしまいました。

すぐ一緒に行ってもらえますか。」

私達は、おそらく夢と思っていたことが、実際起こっていたことに驚きますが、予測はしていたことです。海の底深くの場所に隠された訓練所は、やはり夢で見た通りの惨状です。

「エレナさん、あまりにもひどい状態ですが、誰がこのような事をしたのですか、」

「おそらくディセンションする地球を支配しようとした地球外生命体達が、この施設の事をどこかで調べて、

自分体がコントロールできる訓練生を、この施設なのかに送り込んできたようです。おそらくその者から、この場所がばれたのではないかと思います。」
訓練所で生き残った人たちが悲しみを抑えるように涙を流しながら遺体を運んでいます。

「しかし、被害を受けたのは日本人ばかりですが、それはなぜですか。」
エレナさんはすこし首をかしげながら答えます。
「ここにいた日本人は特殊な能力を持っている人達ばかりでした。
その能力を伸ばすことで、より素晴らしい警備隊ができると、私達は確信していたのです。」

エレナさんだけでなくアシュタールのメンバー達に大きな失望と悲しみが満ち溢れています。
私はこの場所はどうしても復活させなければならないと感じています。
「それでは、エレナさん、時間をさかのぼって、この訓練所が襲撃される前に戻り、侵入してきた連中を捕まえませんか。」
私の一言にエレナさんだけでなくアシュタールのメンバーに希望がとまります。
私達はすぐに、私達の宇宙船であるフェニックス号を呼び出し、地球警備隊やアシュタールのメンバーを乗せ昨夜の訓練所に戻ります。

エレナさんがこの場所の事について説明してくれます。
「TAKESHI さん、この場所は、アシュタールが、これからの地球や宇宙を守るためにつくられたアシュタールの警備隊を要請するための場所です。
特にこの施設は地球人を対象として作られ世界中から優秀な人材が集められています。
誰にも見つからないように、人目の届かない海底に作られていたのですが、参加者の中に闇の存在とつながっていた人がいたようです。
この場所に来る人は、ほとんどの人が強い正義感を持ってきてくださるのですが、中には、警備隊になることを迷っていたためしに訓練に参加してみようという人もいました。
おそらくその様な人達の中に、地球外生命体達が混じていたのではないかと思います。」

私達は時間を超えて、訓練所が襲撃される少し前の時間に到着しました。
訓練所の内側には、アシュタールと地球警備隊、外側にはどのような空間も自由に移動できる宇宙警備隊達を配置しました。
襲撃された時間になると、訓練所の訓練生に扮した地球外生命体達が動き始めました。
訓練所の扉を開いて、外で待っている仲間たちを招き入れようとしているようです。
私達はまず、彼らを捕えました。
そして出入り口に警備隊を配置して、訓練所の扉を開き、襲撃を行った地球外生命体達を捕えます。
異変を知って逃げ出そうとする地球外生命体もいますが、外で待ち構えていた宇宙警備隊によって次々と逮捕されていくようです。

地球外生命体達は、主にレプテリアンですが、現在はプレデター型生命体に操られているようです。
私達は、訓練所の内部で、この襲撃に関わった人達を調べることにしました。
すると大変なことに、新人の訓練生を指導する教官達も、この襲撃事件に加担していたことが分かりました。
訓練所の長官たちは言葉を失っていますが、相手が地球外生命体、でありプレデター型生命体が関わっていれば、あり得ることです。

私達は教官の後頭部を調べると、お決まりのコントロールチップが見つかりました。
これはレプテリアンがよく使用するコードのようです。
コードを抜き去ると、教官達は元の意識に戻りました。
自分達が何を行っていたのか、何故多くの警備隊が集まっていたのか理解できずにおろおろしています。
アシュタールのメンバーが理由を話すと、彼等は驚いて困惑しています。
おそらく訓練生のふりをして入り込んだ地球外生命体からコントロールチップをつけられ、仲間に引きずり込まれていったのでしょう。

この訓練所の始末が終わると、私はエレナさんに、他にアシュタールの施設がないか尋ねました。
「実は、もう一つ科学技術の専門家を育てるための施設があります。
そこも襲撃されている可能性がありますのでお願いできますか。
彼等は、もう少ししたら、光の世界と完全に分離されてしまいますので、その前にアセンションの動きを少しでも止めたくて今回の事を計画していたようです。」

私達が、科学技術研究所につくとそこも同じように襲撃を受けて悲惨な状態になっていました。
アシュタールのメンバー達も怒りを抑えきれないようです。
私達は、警備隊の訓練所と同じように、時間をさかのぼり、同じように防御を行う事にしました。

訓練所を襲撃した時間と同じ時間になると、内部に潜入していた地球外生命体達が動き始めました。
私達は、彼らを逮捕してから研究所の扉を開きます。
すると、同じように外で待ち構えていた地球外生命体達が押し寄せてきました。
中で待っていた警備隊と外を囲んでいた警備隊によって、襲撃してきた地球外生命体達は捕えられました。

もちろん、訓練所と同じように、もぐりこんでいた地球外生命体によって優秀な教官たちがチップによりコントロールされていたようです。
私達は、訓練所と同じように教官や訓練生についていたチップを外すと共に、この研究所にいる資格がない物たちを次々と元の世界に帰していきました。

私達は2地の施設の処理が終わると、「空間の創造主」にお願いして、新たに秘密の場所を作り、その場所にこれらの施設を移動させました。
しかし、未来の事までしっかり考えて訓練や研修を行っていたアシュタールの組織はさすがです。
しかし、アシュタールの警戒を破って、施設に潜入り破壊工作を行う地球外生命体も只者ではありません。

PART2 未来から来たプレデター型生命の真実

私達は、今回のアシュタールの施設を襲撃したレプテリアンとプレデター型生命体にかんして、どうも不思議な点が残ります。
プレデター型生命は、非常に地球と地球人の事を良く知っているのです。
しかも、他の星から来た地球外生命体に適応されるエイリアン法もかいくぐって私達に攻撃を仕掛けてきま

す。

私は、アシュタールのエレナさんにこのプレデター型生命体に関して聞いてみました。

「彼等は、その行動や目的から見て、ディセンションした星の存在であることは間違いないのですが、この存在は、今までの宇宙には存在していなかった存在で、私達もよくわからないのです。

今回の地球のアセンションを目前としてどこからか、突然現れてきた気がしますので、私達も調査中です。」

たしかにこの存在は、突然現れアセンションに関わる装置を破壊したり、桜島や九州の近くを操って大地震を起こしたりしていました。

通常の地球外生命体では分からないような地球の構造や人間の心理や行動パターンを良く知っているのです。

私は創造主に、この存在のことについて聞いてみました。

「記録の創造主」が現れてこのプレデター型生命体について教えてくれました。

「プレデター型生命体に関する記載は、他の星々や宇宙では現時点では見つかっていません。

私が調べたところ、この存在は、地球以外の星からやってきたのではないようです。

おそらく、ディセンションした地球の未来に関わっている可能性があります。」

私は思わず「彼等は地球の未来から来たというのですか、」と「記録の創造主」に尋ねました。

「おそらくそうでしょう。

彼らは、ディセンションした地球で、核戦争や大規模な自然災害を乗り越える為に、自らの姿や構造を大きく変えていったものと思われます。」

「記録の創造主」は、創造主は、地球に関する詳細なデータを調べています。

「TAKESHI さん、ありました。

ディセンションした地球の一つでは、核爆発や原子力発電の事故などが相次ぎ、地球は放射能まみれになってしまったようです。

人類はそのような地球で生き延びるために、放射能を好物とするレプテリアンと遺伝子の交配を行い、今迄とは形状が異なる地球人を生みだしました。

おそらくこのことは地球の時間で言うと 2700 年ころに起きたようです。

この時代までに、レプテリアンとの交配により遺伝子の操作をうけなかった地球人はすでに死に絶え、新たなレプテリアン型の地球人のみ生き残ったようです。

やがて彼等は、他の地球外生命体とも遺伝子交配を行い、さらに強じんな体と高度な頭脳を手に入れ、地球の自然を作り変えるだけでなく、他の天体へも侵略を行っているようです。」

「という事は、プレデター型生命体は、地球人の未来の姿だという事ですが。」

「正確に言うと、光 40%前半の地球において地球人の未来の姿であるという事です。

しかもプレデター型生命体が今の地球に来る事になったのは、現在から約 2400 年先の未来であるようです。」

そうか、私達は、2400 年後の地球人と闘っているという事ですね。

これは、とても困難な問題を抱えてしまいましたね。」

エレナさんも、困った顔をしています。

「それではどうでしょうか。」

私達も、2400 年先に行って、プレデター型生命体を抑え込めるような種族を探し出し、彼らに力になってもらえないか相談してみましよう。」

私達は、フェニックス号に乗り込み、今からディセンションした世界の 2400 年先の未来に向かって旅立つことにしました。

フェニックス号がついた未来は、大変な戦争の真っただ中でした。

それも、プレデター型生命体が支配する地球を、機械人間のような存在達が集団で侵略しています。

まるでスタートレックの映画に出てくるボークのような存在達が、強力な兵器を持って襲っている鵜です。プレデター型生命体も、強力な武器で応戦しているようですが、次々と倒されていきました。

たしかに、プレデター型生命体を抑え込める種族のようですが、今の地球に彼らのような存在があらわれたら、地球はアセンションどころか数日で破壊されてしまう事でしょう。

アシュタールのメンバーも、彼らの戦争を見て、そのすさまじさに言葉を失っています。

プレデター型生命体は、どうやらこの機械人間たちの侵攻に備えて、自分たちのテリトリーを増やし、さらに大きな進化を遂げる為に、2016 年の地球にきてアセンションを妨害し、地球の全てを支配下に置こうとしているようです。

私達は、この世界には関わらず早めに退散したほうが良いようです。

私達がこの世界に来たことが分かれば、機械人間たちも私達を追って、2016 年の地球に来てしまう可能性があります。

ただ、プレデター型生命体が、これ以上 2016 年の地球に逃げ込んでこないように、この時代と 2016 年の世界をつなぐゲートを見つけ破壊することにしました。

これで、このゲートを彼らが復旧するまで、彼等は 2016 年の世界に、新たに入ってくることはできなくなります。

そうなれば、すでに地球に来ているプレデター型生命体を、地球のディセンションした世界に分離してしまえば問題はなくなります。

私達は、現在の地球に戻ってきましたが、あまりのすさまじい光景に疲れ切ってしまいました。

私の心を察したエレナさんが私に教えてくれます。

「TAKESHI さん、恐れることはありません。」

私達が今見た世界は、ディセンションした宇宙の話です。

このアセンションを成功させ、光が 1% でも多い世界に入ったならば、もう彼等と交わることはありませんし、地球がプレデター型生命体に支配されることも、あの凶悪な機械型人間に侵略されることもありませんので安心してください。」

私達は時間おいてプレデター型生命体に対する作戦を立てることにしました。

PART3 プレデター型生命体に対する対策

私達は、その夜プレデター型生命体にたいする対策会議を行いました。

今回は、創造主評議会をはじめ、「審判の創造主」や「予測の創造主」、「真眼の創造主達」にも集まってもらいました。

問題は、彼等は地球人の未来の存在であるので、地球人を良く知っており親近性を持っていることです。その為に地球人とどうかしてしまうと、彼らを切り離すことが出来ず、人間と共にディセンションする世界に分離する事しかできないのです。

「皆さん、ご存じのように、私達のアセンションに関する行動は大きな障害を新たに見出しました。それは地球人の未来生であるプレデター型生命体です。

彼等は、地球人との共通の遺伝子や精神構造を持っているために、他の地球外生命体よりも簡単に地球人に入り込み、さらに深く地球人と同化します。

彼等は今までの地球外生命体以上に、地球人の弱みを知っており、地球人を欲望の世界に導き、光ある存在を、学びの世界に引きずり込んでいきます。

また、2400年後の世界から来ているため、科学技術にも卓越しているために、地震などの自然災害を起こすことも可能です。

このプレデター型生命体の処理に関して、私達は行き詰っています。」

ここでアシュタールのエレナさんが、話をします。

「彼等は、今迄私達の世界には現れませんでした。

おそらく2400年後の世界で、地球が他の地球外生命体に侵略された時、自分たちの支配下に置ける地球を広げたくて、私たちの時代に戻ってきたのだと思われます。

現在のところ、彼等は非常に巧みに地球人に同化して身を隠しています。

他の地球外生命体のように本拠地も持たず、特別の周波数のみで交信しているので、その基地や指導者を発見することは極めて難しい状態です。

一人一人の人間の中から姿を現した時に、人間ごとディセンションした世界に分離する事しか方法がありません。

創造主の一人が発言します。

「それでは、地球人達がプレデターの欲望に負けないようにしっかりと意識を持つことが大切です。プレデター型生命体の誘惑に負けてディセンションした人たちにすれば、将来プレデター型生命体になるという事も、地球で生き残るためには重要な判断です。

このことを一概に悪いとは言えないと思います。」

「創造主よ、確かにそうなのですが、彼等は地球人よりもはるかに高い叡智と、人間の深層心理を利用して、上手に欲望を抱かせていきます。

そのことをプレデター型生命体の事を全く知らないし、見ることもできない地球人が気をつけるといっても、気をつけようがないのです。」

「TAKESHIさん、確かに地球人はプレデター型生命体の姿が見えないのは当然ですが、あなたがいつも仲間たちに行っているように、特別な能力を与えるようなヒーリングをおこなったり、大きな利益を簡単に生み出すような方法に飛びついてしまう人達は、もはや光の世界に行く資格がないのです。

本当に純粋なスピリットの目で見れば、それがどれほど危険性があるものか、人間は思い知るべきですので、

あなたが、人間をかばう必要はないと思われます。」

「たしかにこの地球では、全てが自己責任で行われますので、プレデター型生命体や地球外生命体の誘惑を拒否できない人は、ディセンションした世界に行くのは当たり前なのですが、彼らに誘惑されてしまう光の存在達を、一人でも多く救えないかと思っているのです。」

「私エレナもそのように思っています。

彼等を分離していくことしか、今の私達には方法がありませんが、もっと異なる方法でプレデター型生命体の暴挙を止められないかと考えております。」

私は思いついたことを創造主に言ってみました。

「たとえば、プレデター型生命体は、同じ地球とはいえ、未来から来ています。

未来の存在が、その時代に干渉することは、その星の未来を大きく変える可能性がありますから、これは明確な違反行為であると思われますが、いかがですか。」

今度は「記録の創造主」が答えます。

「TAKESHI さん、光の世界では、その法則は適用できるのですが、ディセンションした世界では、一概に悪いとは言えないのです。

しかもプレデター型生命体がこの時代、地球に関わり、自分達独自の進化を行うという事は、地球にとってはすでに正しい歴史となっております。

彼等の働きかけがないと、このディセンションした世界は西暦 3000 年ころには消滅することとなるでしょう。

彼等は、その世界の人にとって見るならば、放射能時代を生きるために必要な救世主なのです。

それは、いくらあなた方でも変えることはできません。」

創造主との話は、なかなか進みません。

創造主達は、地球人の自己責任を強調しますし、また地球の未来から来たプレデター型生命体に対する歴史的な記録があるために、有効な方法がとれないようです。

私達も、ここはいったん引いて、光の世界に関わるプレデター型生命体をいち早く分離させていくという方法をとることにしました。

PART4 夢の中での精神攻撃を禁止する新たなエイリアン法

ところがその翌日、プレデター型生命体が夢の中で私達に精神攻撃をかけてきました。

美樹さんと私達にとってとても辛い過去を思い起こさせたり、特定の人から私達を攻撃するという夢ですが、これは明らかに、私達の潜在意識に対してコントロールを目的とした攻撃でした。

エレナさんにこのことを尋ねると、彼女もうなずきながら答えます。

「実はこのことが、私達も一番困っていることです。

実はプレデター型生命体によって、人間の意識に対して大きなブロックがかけられているので、私達が、ファースト・コンタクトのために行っている個人コンタクトの方法がうまくいかないのです。

プレデター型生命体は、人々が眠っている時に、その人の意識に入り込み、様々な欲望を持たせて、光の世界へ行くことから目を背けるようにしています。

また、欲望を持たない人には過去の苦しい経験を何度も追体験させて絶望感を生みだし、生きる気力を失わせてしまうのです。」

「それは今までも、闇の創造主達が行ってきた方法ですが、彼等は地球人との親和性があるので、より強力に作用しているのですね。」

「そう通りです。」

私達は、地球人にたいして、プレデター型生命体の言いなりにならないように、守護天使を通して、プレデター型生命体のエネルギーを防御しようとしているのですが、なかなかうまくいきません。

おかげで、ファースト・コンタクトに向かう人に対する個人コンタクトが遅れています。」

私は、現在の最高レベルにある「光彩の創造主」とこのことについて話をしました。

今迄は、地球外生命体に対しては、エイリアン法を使用して、このような状況の場合、地球外生命体を逮捕することが出来たのですが、彼等は地球外生命体ではないので、この法案を通り抜けてきたようです。

「光彩の創造主」は、私達にプレデター型生命体であってもこの法を適用することに対して許可を与えてくれました。

「それでは、光の地球に置いては、地球外生命体や未来の地球人であろうとも、本人の同意なく、その人を支配する目的を持って意識、深層意識、潜在意識に対するいかなる干渉を行なう事を禁止します。

もしこの法に違反した場合には、その存在にとって適切な世界か元の世界に戻すことにします。

ただし、アセンションに関わるスターピープル達が善意で行う場合は例外とします。」

という法律を作成することにしました。

この法律によって、たとえディセンションした世界にいる存在であったとしても、光の世界にいる人、光の世界に行こうとする人に対して、精神的な介入や干渉を行った場合には主伐されることとなります。

おそらく、この場合の処罰とは、人と同化しているプレデター型生命体に関して言えば、その人ごとディセンションした世界に分離されることとなるでしょう。

人とどうかしていないプレデター型生命体は、すぐに光に帰る事となります。

この法律によってプレデター型生命体は、自分たちの活動範囲をディセンションした世界にのみ限定されることとなりますので、光の世界、光に行こうとしている人達には介入できなくなります。

アシュタールのエレナさんたちは大喜びです。

これでプレデター型生命体や地球外生命体たちによって、人間の意識に介入してコントロールされることが少なくなるので、ファースト・コンタクトを間近にひかえて、個別コンタクトが大変やりやすくなります。またプレデター型生命体に対してもこれで法律に違反した者達を捕えることが出来るようになったようです。

しばらくすると、私達の意識がずっと軽くなっていくのが分かります。

そして私達の脳に、天使達の意識やスターピープル達の意識がどんどん流れ込んできます。

私たち自身も、気づかないうちにプレデター型生命体によって、スターピープルや天使達との意識の分断を図られていたようです。

しかしこれで、地球の分離もさらに進んでいくことでしょう。

PART5 地球のコアを狙うプレデター型生命体

未来の地球から来たプレデター型生命体を取り締まる法案を作り、これでプレデター型生命体からの被害が少なくなると思っていたのですが、なかなかそうはいきません。

彼等は、現時点で光が40%から50%以下のディセンションした地球の未来からやってきているので、アセンションしていく世界としては最も大きな割合を持つ世界です。

現在の地球に住む人々はそのうち、51%以上の世界に行く人は、およそ3割とみられていますので、残りの7割の人は50%以下の世界にとどまります。

そしてその中の約半数位が、プレデター型生命体へと進化していく世界に住むことになるのです。

その進化は、放射能や核戦争によって汚染された地球で生きる為には必要な進化でした。

地球人は、放射能や劣悪な自然環境に耐える為に、自分たち自身を新たに作り変えていったのです。

しかし、その後西暦4500年くらいに、さらに凶悪な地球外生命体が地球を侵略することとなり、プレデター型生命体は危機に瀕します。

その為に、プレデター型生命体は、2016年の地球にタイムトラベルしてやってきました。

彼等は、現在の地球人の遺伝子と非常に近い遺伝子を持っているために現在の地球人と同化しやすく、地球人の中にたやすく入り込んでしまいます。

そして人の体を使って、地球のアセンションを妨げ、地球のほとんどの人々を現在の地球と同じ光り41%から49%の世界にとどめようとしているのです。

そうすることでプレデター型生命体の世界に行く人々の人数を増やし、今よりもさらに優秀な地球人をたくさん手に入れることが出来ます。

そのことによって、2500年後の西暦4500年には、本来よりも優秀なプレデター型生命体がたくさん存在することとなり、地球外生命体の地球侵略を防ぐことが出来ると考えたようです。

プレデター型生命体は、特に孤独感や絶望感、依存心や自己中心的な欲望を持っている人と夢の中や無意識の中で同調します。

そして、人々に光の世界に行くことよりも今と同じ世界で欲望を持って生きる事を強いるようになるのです。現在の地球でもおよそ3割から4割の人が、未来の地球人であるプレデター型生命体の世界に行くことになっていますが、これ以上、光の世界に行く人たちがプレデター型生命体の世界に引きずり込まれては、アセンションそのものが失敗してしまいます。

私達は、プレデター型生命体の活動を抑制するために、エイリアン法をプレデター型生命体にも適用し、彼らの精神攻撃を抑え込もうとしましたが、まだ彼らの攻撃は続いています。

ある朝、お腹の痛みで目が覚めました。

不思議に思い、調べてみると、私のスピリットの一部である神龍のエルエルに大きな攻撃が加えられているようです。

私達は、フェニックス号を使いアシュタールや創造主警備隊と共に、地球のコアに入りました。
エルエルは、地球にとって最も大切なコアをまもっているのです。
もしこのコアが破壊されたら、地球そのものが破壊されることになってしまうでしょう。
エルエルは、お腹を中心として体に大変なダメージを負っています。
特にお腹のあたりが真っ赤に腫れ上がっています。

私はすぐに高次元のシェンロン達を呼び寄せエルエルの傷を癒します。
私はエルエルに話しかけます。

「エルエルどうしたのですか、何が起こったのですか。」

エルエルは私達が来てくれたことに安心したようですが、力ない声で答えます。

「実は少し前から、サイキックな攻撃が起きていて、私がコアを守るために、その盾となって防いでいたのですが、もう耐えることが出来なくなっていました。」

そうか、エルエルは私のスピリットの一部ですので彼が耐えられなくなると、私のほうにまでそのネガティブなエネルギーが流れ込んできます。

「それはどのようなエネルギーが襲ってきたのですか、」

「人間の潜在意識の塊のようなエネルギーです。」

憎しみやねたみ、怒りや悲しみ、そして恐怖の塊のようなエネルギーが次から次に襲ってきます。

私は人間ではないのでその感情に影響はされないのですが、そのエネルギーのすごさに、体も引き裂かれるようでした。」

「エルエルよそのエネルギーは、いつごろから来ていたのですか、」

「おそらく6月の始めころからだと思います。」

6月の始めころというと、プレデターの攻撃が私達にもおよび始めたころです。

そして、胆石の発作が起こったのもこの頃でしたので、これは地球のコアを傷つける為に送ったエネルギーを、エルエルが受け止めたことによって、私の体にも同じようにダメージが与え続けられたのでしょう。

アシュタールのメンバーに調べてもらおうと、やはりプレデター型生命体と同調するエネルギーが見つかりました。

私達は、「分離の創造主」にお願いして、地球のコアに送り続けられる人間の潜在意識のエネルギーを、エルエルと地球のコアから分離してもらいました。

そして「愛と浄化の創造主」にお願いして、エルエルの中にたまった憎悪や恐怖のエネルギーを浄化してもらいます。

そしてエルエルの傷を癒しコアの修復が済むと創造主に、このコアを守るための方法はないかと尋ねました。

「真眼の創造主」が進み出て私達に提案します。

「このコアを、特別な力で誰からも見えないように光のドームで包みましょう。」

そうすれば、誰からも攻撃さなはずです。」

「真眼の創造主」は、自分の杖を高く振り上げ、地球のコアを光で包み込みます。

地球のコアは白銀に輝き美しいドームの中に消えていきます。

第2章 プレデター型生命体を利用していた創造主

PART1 「感情を操る創造主」の能力を得たプレデター型生命体

私は、地球の未来から来たプレデター型生命体達にしては、行うことがあまりにも度を越している事を不思議に思い、彼らのエネルギーを利用している存在があるはずだと、創造主やスターピープル達にその搜索を依頼しました。

実は、新たなエイリアン法が出来たにも関わらず、私達への精神攻撃が続いていたからです。それは、私達への強い憎しみや怒りを感じさせるものでした。

私は、「光彩の創造主」にもこの件について聞いてみました。

「光彩の創造主」はしばらく目を閉じて何かを調べているようです。

「TAKESHI さん、思い当たる創造主が一人います。

それは、叡智ある生命の感情をコントロールし、適切なものにする仕事を行っている創造主ですが、ある時から闇の創造主達に近づき、行動がおかしくなったので、隔離していたのですが、どうやら彼が関わっている可能性があります。

彼なら、人々の感情を操ったり人々の潜在意識を利用するのは得意なはずです。」

私は、確かにそのような創造主が後ろにいれば、プレデター型生命体の能力がここまで高いことにも納得がいきます。

「「光彩の創造主」よ、その創造主は、どこに隔離されていたのですか。」

「光彩の創造主」は、私の問いに答えるように、「審判の創造主」を呼び出して言います。

「かつて彼は「審判の創造主」と共に活躍していた創造主ですので、彼に見にいってもらいましょう。」

「光彩の創造主」は「審判の創造主」を呼び出し、その創造主が隔離された場所にいるか、確認に行かせました。

しばらくすると「審判の創造主」が戻り、隔離された場所に彼がいないことを告げてきました。

これで間違いなくプレデター型生命体の後ろにいる創造主は彼のです。

私は、創造主警備隊にお願いしてプレデター型生命体のエネルギーを辿り、「感情を操る創造主」を探してもらいます。

私も予測の創造主にお願いして「感情を操る創造主」の場所を予測させ、創造主達に知らせます。

しばらくすると、創造主警備隊から連絡が入り、「感情を操る創造主」が見つかったようです。

私達も、その場所に行くと「感情を操る創造主」がうなだれた様子で立っています。

自分が、隔離された場所から逃げ出した事やプレデター型生命体を使って地球の人々や私達に攻撃を行っていたことがばれてしまったからには、彼は罰を受けることを逃れることはできません。

「審判の創造主」は「感情を操る創造主」に、誰が、彼を解き放ったのかを問いただしていますが、「感情を操る創造主」は無言で答えません。

「光彩の創造主」は「感情を操る創造主」が隔離された場所から解き放たれた様子を見ていたようです。「光彩の創造主」が、とても厳しいものになりましたが、「光彩の創造主」はそのことについて何も答えようとしません。

私達は、「感情を操る創造主」を光に帰すことで、プレデター型生命体が持っている能力の中で、人々の心の中に入り込んで、その人の感情を操る能力に関しては、きっと能力の低下がみられることでしょう。

私達は、「感情を操る創造主」を始末して、これでプレデター型生命体の問題は終わるかと思っていたのですが、其の日の夜、「光と闇の創造主」を初めとする物理世界の創造主達が、私達のもとにやってきました。私達に関わる人を通して、何か大きな問題の手掛かりを探しているようでした。おそらく「光彩の創造主」似頼まれたのではないかと思います。

「光と闇の創造主」はプレデター型生命体に関するゲートをさらに詳しく調べています。

PART2 プレデター型生命体を操っていた「強欲の創造主」

夜も遅い時間、私のお腹にまた痛みが走りました。

またエルエル達に問題が起こったのではないかと思います、地球のコアに行きました。

すると「真眼の創造主」によって作られたコアの白銀のドームに見事に穴があげられているのです。

そしてコアの盾となったエルエルに大きなサイキックアタックが加えられ、苦しんでいます。

私はすぐに、高次のシェンロン達を呼びエルエルの傷を癒します。

しかし現在出ている創造主の中では、「光彩の創造主」に続く位置にいる「真眼の創造主」の光のドームを打ち砕くとは、尋常な出来事ではありません。

「真眼の創造主」も怒りで震えています。

「このような事が出来るのは、この世界には、もういないはずです。

一体誰が、このような事をしたのでしょうか。」

私も、このことを行った犯人を調べ、この問題を解決しなくてはなりません。

私は「虹彩の創造主」にお願いします。

「「光彩の創造主」よ、これは大変なことになりました、

時間をさかのぼって、このことを行った犯人を捕らえたいのですがよろしいでしょうか。」

「TAKESHI さん、もちろんそうしなければなりません。

私も一緒に行きましょう。」

私達は、時をさかのぼりコアのドームが破られた時間に戻ります。

私達が、創造主警備隊を配置につけ待ち構えていると、一瞬大きな光が煌めき、創造主警備隊をなぎ倒していきます。

その光のすさまじさに創造主達も後ずさりします。

そしてその光の中から現れた創造主をみて、多くの創造主が青ざめます。

それは、私達が「根源の闇の世界」との最終決戦で、光に戻したはずの創造主です。

「光彩の創造主」がその創造主の前に立ちはだかります。

「強欲の創造主」よ、まさかあなたがここに戻ってきていたとは考えもつきませんでした。あのいたずら好きの時を操るドラゴンが、あなたをこの世界に戻したようですね。」

「強欲の創造主」と呼ばれた創造主は、根源の闇の世界の創造主でも女ボスのような存在で、その無慈悲な仕打ちは、根源の闇の世界でも横に出るものがないといわれるほどに凶悪なものです。

「光彩の創造主」よ、あなた方は、私達の世界を踏みにじり、多くの創造主達を光に帰してしまったことを忘れたのですか。

私達は、その屈辱の日を決して忘れることはないでしょう。

私達が、私達の世界を取り戻すために、まずこの地球を私達の物にします。

そして、私達を光に返した者達一人一人に、私達が味わった苦痛を味あわせてやる。」

「強欲の創造主」がすごい形相で私達をにらみます。

彼女が、この地球のアセンションを止めるだけでなく、自分達を葬った私達に復讐する為に、地球のコアを狙い、エルエルを通して私の体を痛めつけていたことに間違いがないようです。

そして、「感情を操る創造主」を隔離した世界から解き放ち、プレデター型生命体を操って私達に精神攻撃をかけていたのも、彼女の策略だったようです。

「光彩の創造主」が、ひるむことなく「強欲の創造主」野動きを制して言います。

「もうあなた達の時代は終わったのです。

あなた方は、あまりにも自分達の望むままにふるまい、この宇宙を混沌としたものにしてしまった。あなた方は自分が犯したことに対する責任を取らされただけです。」

「強欲の創造主」は、怒りに狂った表情で「光彩の創造主」に闇のエネルギーをぶつけようとします。

「光彩の創造主」は、片手をあげてそのエネルギーを弾き返すと、「強欲の創造主」を光で包みます。

「強欲の創造主」は悔し紛れ野叫び声をあげながら光に帰っていきました。

光の創造主達はほっとしたように、物陰からぞろぞろと出てきます。

その姿も情けないのですが、「光彩の創造主」によって、「強欲の創造主」は光に変えられて安心したようです。

私は、「光彩の創造主」に向かって感謝の言葉を述べます。

「光彩の創造主」よ、本当にありがとうございました。

あなたは、このプレデター型生命体を操っていたのが、「強欲の創造主」であることを知っていたのですか？」

「いえ、このことに気づいたのは、「感情を操る創造主」を捕えてからです。

私は、「光と闇の創造主」達にお願いして、その証拠を見つけ対処しようと思っていたのですが、向こうから現れてくれたので、思ったよりも早く処理することが出来ました。」

「しかし、誰が「強欲の創造主」を蘇らせたのでしょうか。

あの最終戦争の時に、彼女も光に戻したとばかり思っていたのですが、」

「TAKESHI さん、あの時に、時を操ることが出来るドラゴンが、その姿を隠して逃げ出したようです。

そのドラゴンが、皆さんの前に姿を現した時に、このことが起こるのではないかと予測もしておりました。」

私は「予測の創造主」を呼び寄せました。

「「予測の創造主」よ、私達が、この「強欲の創造主」の存在に気づかずにいた場合、アセンションはどのようになっていたか、予測してください。」

予測の創造主は、様々な要素を入力しているようです。

「おそらく60%未満の光の世界は、すべてディセンションする世界に飲み込まれていると思います。地球の中で、光の世界にアセンションできるのは、およそ10%程度でしょうか、場合によっては地球のコアが破壊され、アセンションそのものが消滅していた可能性もあります。」

私達は大きくため息をつきます。

PART3 プレデター型生命体の司令塔

「強欲の創造主」を光に返した翌日の朝、美樹さんがまた不思議な夢を見ました。

それは小学校のようなところで、靴箱に入れてあった靴がなくなり、帰ることが出来ないと泣いている夢でした。

私達はこの夢を不思議に思い、彼女のスピリットがどこかに捕らわれているのではないかと思い、その夢のエネルギーを基に、その場所に行ってみました。

するとそこには、数名のプレデターとたくさんの子供達屋大人たちがいます。

それぞれの年齢に合わせていくつもの部屋に分けられ、プレデターとしての教育を行っているようです。つまり、地球人の中で、すでにプレデターと同化してしまった人のスピリットをこの場所に連れてきて、自分たちのテリトリーを広げる為の活動を行わせるように意識改革を行っているのです。

彼等の世界は、ある意味、無慈悲な世界です。

愛や優しさというものは必要がなく、強いものが生き残るための世界ですので、自分たちの仲間を増やし、軍隊のように教育していく必要があります。

教官となるプレデター型生命体は、そこに連れてこられたスピリット達を非常に厳しく扱っています。

私達はアシュタールのエレナさんや「光彩の創造主」達と話し合いました。

そしてこの場所のありかも突き止めました。

ここは、西暦2016年の地球ではなく、それから少し進んだ西暦2100年くらいの地球のようです。

ここから2つの時間をつなぐゲートを作り、2016年の人間のスピリットに教育を行っていたようです。

エレナさんが話をします。

「私達は、このプレデター型生命体は特別な基地も持たず、お互いのコミュニケーションだけで活動していると思っていましたが、それは2016年という時間の中に、彼らの基地がなかったので、基地を発見することが出来なかったようです。

彼等は、この2100年という時間と2016年という時間を大きなゲートでつなぎ、常にここを行き来しながら活動した板ことが分かりました。

これで、彼らの大きな弱点をつかんだことになります。」

「ではみなさんどうしましょうか。

先ずこの訓練所を基にして、同じような訓練所やその他の施設がいくつか存在していると思いますので、その施設を急いで探しましょう。

その仕事は、アシュタールとスターピープル達におねがいします。

施設が見つかったら、創造主警備隊、宇宙警備隊、地球警備隊はプレデター型生命体をすぐに捕まえて収容してください。

またその施設から地球に降りているプレデター型生命体で、まだ人に同化していないプレデター型生命体は、捕えることが出来るはずですので、すぐにとらえて収容してください。

そして、天使達もここに集まってください。

天使達と天の川銀河連合の騎士団は、そこに捕らわれている人々のスピリットを救い出し、本人のもとに戻してあげてください。」

私達の大切な仲間たちが、光となって四方に飛んでいきます。

アシュタールとスターピープル達によって施設が隔々まで調べられ、プレデター型生命体の通信基地も見つかったようです。

ここから、いくつもの世界に隠された施設が、次々と見つかっていきました。

私は、残っている光の創造主達に命じました。

「皆さんは、この施設を作った張本人を探し出してください。

これは、未来の施設ですから、「強欲の創造主」では作れないものです。

きっと別の創造主が関わっている可能性があります。」

アシュタールのエレナさんから、私達にプレデター型生命体の司令室がある施設が見つかったという報告がありました。

私達と光の創造主達は、すぐにその施設に移動します。

そこには、戦闘能力が高い軍隊のようなプレデター型生命体がたくさん配置されており、創造主警備隊や宇宙警備隊もてこずっています。

プレデター型生命体の弱点は、強い光なので「光彩の創造主」をはじめ多くの創造主が一度に光を送りません。

すると戦闘的なプレデター型生命体は自分の目を抑えてうずくまってしまうました。

その時をねらって、創造主警備隊や宇宙警備隊が次々と彼らを捕まえて収容していきます。

アシュタール達は、このタイミングを見計らって、指令室に入り込み、全てのプレデター型生命体に指令を送っていた司令官たちを逮捕したようです。

私は、捕えられたプレデター型生命体を前にして問います。

「あなた方は、ディセンションした地球の未来から来た人たちであることは、私達もよく知っています。

皆さんは、これから起こる様々な自然災害や核戦争、原発の放射能などによる汚染を乗り越える為に、自分の体を改造して生き残ってきた種族であると聞いています。

間違いはないですか。」

プレデター型生命体のリーダーと思われる者が怒りに満ちた表情で私達をにらんでいます。

「もちろんです、私達は地球の未来から地球を救うためにやってきたのです。それをあなた方は邪魔をするとは、信じられない暴挙です。しかも、私達の仲間たちを捕え光に返したり、強制的な分離を行い、私達の仕事を妨害しているのです。あなた方こそ、罰せられるべきです。」

たしかに、彼らの立場からすれば、彼らのいう事は正しいかもしれませんが。彼等は自分達の世界を救うために、この時代に来て、優秀な仲間を増やすことを行っているのですから。「確かにあなたが言う事は、あなたの世界では間違えてはいません。あなたがたは、現在の地球の未来性から来た存在であるので、この地球はあなた方にゆだねられるべきものです。私達もそれは否定しませんし、そのことを邪魔するつもりはありません。」

プレデター型生命体は勝ち誇ったような顔をして言います。「そうです、ならばすぐにこの場所から全員退去してください。私達の施設と仲間たちを基に戻してください。」

「私達は、あなた方が定められた世界の中で活動することは正当だと認めていますが、人間と同化して、他の人間の精神や夢に入り込み、その人をコントロールしたり、光の世界に行くべき人の光りを奪い、ディセンションした世界に連れて行くのはやめていただきたい。今回も、私達のスピリットを、皆さんの施設の中に連れ込んでいました。そのことによって、この場所が発覚しましたので、私達は光の世界の法律により、この場所を取り締まることとしたのです。」

プレデター型生命体のリーダーは不服そうな顔で言います。「人間がどの世界に行くのかを決めるのは、人間自身です。我々は、その為の手助けをしているだけなのです。人間は、現在の地球の未来について責任を取る義務があるので、私達はそれを教えているにすぎません。」

彼はおそらく非常に優秀な司令官なのでしょう、私の言う事を簡単に納得しません。「それからもうひとつ、あなた方に力を貸していた創造主達は、あなた方に力を貸すことにより、現在の地球のアセンションを失敗させるだけでなく、この地球に大きなダメージを与えようとしていましたので、その責任を取って、光に返されました。あなた方が、行っていることは、地球の未来人である皆さんの意図を超えたものになりつつあるという事を私達は危惧して、光の世界に関与している部分に対して、あなた方を取り締まることにしました。その代り、あなた方が、決められた世界の中で活躍する分には、私達も手出しをしません。」

その時、創造主警備隊から、このプレデター型生命体を操っている創造主を発見したという連絡が入りましたので、私達はこの指令室とリーダー達を、特別な空間に収容し、創造主のもとに行くことにしました。

創造主警備隊から話を聞くと、この創造主は、今から2500年先の未来に存在している創造主で、その世界の秩序を保つ働きをする創造主のようです。

「記録の創造主」にお願いして、未来の記録からこの創造主の事を調べてもらいました。

「未来の記録を調べると、確かにそのような創造主は存在します。

この時代の地球は、光が42%程度から53%程度のいくつもの地球がパラレルワールドとして存在しています。

光の度合いに応じて、プレデター型生命体の性格や資質も異なるようです。

この創造主は、48%から53%までの世界に存在する創造主で、その世界ごとに光の度合いや創造主としての資質が異なっています。

彼の目的は、光と闇の度合いを調整する事や世界の秩序を保つことです。

しかし、この創造主が「強欲の創造主」と手を組んだ、という記載は現在のところ存在していませんので、もし、この創造主が「強欲の創造主」と手を組んで活動しているとしたら、彼自身の波動を著しくおとしめますので、光48%以上の世界の創造主として活躍することはできません。

おそらく光48%以下のかかなり闇が多い世界の創造主として、闇の世界に君臨する事となるでしょう。

それに伴って、プレデター型生命体が存在する地球の未来も、さらに闇が多い世界となる事でしょう。」

記録の創造主によれば、本来この創造主は、さほど闇が多い創造主ではないようですので、話をすれば分かり合える創造主のようです。

もしかしたら「強欲の創造主」に利用されているだけかもしれませんので、私達は、まずコントロールチップがはめ込まれていないかを調べることにしました。

「光と闇の度合いを調整する創造主」は、私達に自分の計画がばれてしまったことで小さくなっています。おそらく「強欲の創造主」も「感情を操る創造主」も私達によって光に返されたことにきづいて、私達が来ることを恐れていたようです。

あるいは、最後の手段と思って美樹さんのスピリットを捕えて、私達に対抗しようとしたのかもしれません。

「光と闇の度合いを調整する創造主」よ、あなたは2500年後の未来では、立派な創造主として、世界の秩序を守るために活躍されているそうではありませんか。

あなたのような、理性ある創造主が、2016年の世界に来て、プレデター型生命体を使って人々の意識に入り込み仲間を増やそうと考える理由が分かりません。

これは、未来からきて過去に干渉する行為になりますので、未来を大きく変える可能性もあります。

創造主であれば、それが違法であることをご存じだと思いますが、いかがですか。」

「光と闇の度合いを調整する創造主」は、まじめそうな顔をして答えます。

「私もそのことを良く知っております。

しかしながら、私達の時代には、創造主の派閥もいくつか出来上がっていて、地球の統治を巡ってお互いが争っていました。

そしてそのような混乱のさなかに、残忍な地球外生命体が地球を侵略する為にやってきたのです。

私達は、お互いの派閥争いに疲れ果て、地球外生命体に対抗する力ものこっておらず、簡単に侵略されてしまいました。

私は、この時代の派閥抗争をなくして、地球の創造主と人々が一つになって、地球外生命体に立ち向かう事で、地球の危機を救えると考えました。

その為に、アセンションの前の地球に来て、優秀な仲間体を増やし、力をつけたいと思ったのです。」

その時、創造主の一人が「光と闇の度合いを調整する創造主」にコントロール・チップがあることを発見し、私達に報告してきました。

「偉大なる「光と闇の度合いを調整する創造主」よ、あなた方の世界が、地球外生命体から侵略されて、危機的な状況に陥ることは、私達も未来に行ってみてきましたから、良く知っています。

そして、あなたの気持ちも行ったことも理解できます。」

「光と闇の度合いを調整する創造主」は、私の言葉に少し安心したようです。

「しかし「光と闇の度合いを調整する創造主」よ、あなたは、この計画を単独で行いましたか、それとも「強欲の創造主」や「感情を操る創造主」の力を借り手行いましたか、教えてください。」

「光と闇の度合いを調整する創造主」は、今度は気まずい顔をしています。

「もし、あなたが単独でこのことを行っていたら、プレデター型生命体は、人々の夢や無意識に無理やり介入して理不尽な行為を行う事はなかったでしょう。

そして地球のアセンションそのものを妨害し地球のコアを傷つけることはしなかったでしょう。

そして、私達にもサイキックな攻撃を仕掛けてくることはなかったでしょう。

そうすれば、私達は、あなた方ともうすでに世界が分かれているので、お互い関わる事はなかったと思います。

しかし、私達が関わる事になったのは、このコントロールチップのせいではなかったのですか。」

私は、「光と闇の度合いを調整する創造主」につけられていたコントロールチップを彼に見せながら言いました。

「光と闇の度合いを調整する創造主」は、慌てた口調で、「それは一体なんですか。」と質問してきました。

「これは、コントロールチップといって、私達の時代では、誰かの意識をコントロールして、自分に従わせるために使用する機械です。

おそらく、「強欲の創造主」があなたに取り付けて、あなたをコントロールしていたのでしょう。

ただし、あなたの意識を残しながら、プレデター型生命体に対する指示や能力を大きく変更させていったのでしょう。

あなたの部下であるプレデター型生命体は、「感情を操る創造主」によって、人の意識に介入し人を操る能力を大きく高められていました。

その為に、地球人はプレデター型生命体の言いなりになってしまい、光をもった存在であってもディセンションした世界に行かされることになってしまったのです。」

「光と闇の度合いを調整する創造主」はうなだれてしまいました。

「私は、その力を持った創造主に、この時代に来て、仲間をたくさん増やせば、私達の勢力が大きくなり、異なる派閥の創造主達も一つにまとめて、地球外生命体達を倒すことが出来ると聞かされてきました。

その為に、未来からタイムトンネルを作り、この世界にやってきたのです。

私達は、この時代が、光の世界と学びの世界の分岐点だと聞かされてきましたので、私達は総力を挙げて、この世界の人達を取り込む努力をしたのです。」

「もちろん、あなたは地球の未来を守るために行動したことは立派な事です。
しかし、「強欲の創造主」の創造主には、異なる目的がありました。
それは、しばらく前に、地球だけでなく更に大きな宇宙に君臨していた「根源の闇の世界」の創造主達を、私達、光の創造主によって処理されてしまったので、自分達の仲間を失った悔しさから、この地球のアセンションを妨害し、全てを闇の世界にしようとしたのです。
もちろん、その計画はうまくいきませんでした。
すると彼女は、地球のコアを攻撃して地球そのものを破壊しようとしたのです。
彼女は、その罪によって光に返されましたが、それらの事に利用されたのが、あなたの忠実な部下であるプレデター型生命体達なのです。」

「光と闇の度合いを調整する創造主」は、私の話を聞いてがっくりと膝をついて言葉を失っています。
「それでは、私達は地球を破壊することを手助けしていたというのですか。
なんと恐ろしいことを、私達はしてしまったのだろう。」
私は彼のその姿を見て、とてもかわいそうに思えました。

私は、「光彩の創造主」に、彼の罪を許して未来に帰してあげたいとお願いしました。
「光彩の創造主」は静かにうなずきました。
私は、「光と闇の度合いを調整する創造主」にむかって言います。
「創造主よ、どうぞこのまま自分の世界にお帰り下さい。
「強欲の創造主」も、すでにいけませんので、あなたは罪に問う事をいたしません。
どうか自分の世界に戻り、他の創造主達に地球の危機を乗り越える為に協力するようお伝えください。
そして、必ず私達の大切な地球を守ってください。」

「光と闇の度合いを調整する創造主」は、私達を見てうなずいています。
「皆さん本当にありがとうございました。
皆さんのおかげで、私達は目が覚めました。
私の世界に帰って、きっと地球を守るために精一杯働きます。」

私は宇宙警備隊や創造主警備隊にお願いして、収容していたプレデター型生命体を全て開放しました。
「光と闇の度合いを調整する創造主」は、指令室の奥に隠してあったタイムトンネルを使って、自分達の世界へと帰って行きました。

PART5 分離していく世界の未来

6月16日、この日の夜、地球は光の世界の中で大きな分離を迎えました。
それは、光の世界でも、境界の世界と呼ばれる光51%から53%の世界です。
頻発する熊本地震や新たに起こった函館の内浦湾を中心として起こった地震、茨城の地震に刺激されるようにして大きな地震が起こり、光51%から53%の世界では壊滅的な状況を迎えたようです。
大きな地震と津波によって、多くの人々の命が失われたようです。

また稼働している原発、稼働していない原発も多大な被害を受け、広範囲にわたり放射能汚染が起きました。

しかし、ここで失われた命は、スピリットとしてそれぞれが本当に存在するための世界に戻っていきます。更に光が強い世界に戻り、その世界に存在する自分とひとつになることで、光の自分と統合され、光の世界に生きていくこととなります。

又この世界に生き残った人は、放射能に汚染された地球で、生きていくことで、自然環境の大切さや自己中心的な生き方を捨てる事を学ぶこととなります。

しかし、放射能汚染が広がる地球で生きていくためには、スターピープル達の指導に従って、自分達の肉体を大きく変容させ、放射能に対応できる体を作っていかなければなりません。

その為に善良なレプテリアン達の遺伝子を地球人に組み込み、放射能を自分の体に取り込んでも平気な体を作り変えていったのです。

その後も、スターピープル達の指導のもとに、地球環境に順応できる体質を作り上げていきます。

そして、約 700 年から 1000 年かけて、今回、地球にやってきたプレデター型生命体へと進化していきました。

光 51% から 53% の世界、プレデター型生命体達が中心となる世界ですが、この世界は光がまだ少ないとはいえアセンションした世界に含まれますので、地球はずこしずつ穏やかな世界になっていきます。

プレデター型生命体は、地球の環境から放射能を除去して少しでも、元の環境に戻るように長い時間をかけて取り組んでいます。

自分のエゴを捨て去り、地球の環境を守る事、それが、この世界に来た人たちの学びなのです。

そして光のプレデター型生命体は、この 2016 年の世界にきて、将来自分達がこのような姿にならなくて済むようにしたいと伝えてきました。

その為には、私たちが生きている時代から核兵器や原発をなくすことが第一です。

日本の中で 2016 年現在、稼働している原発は、私が住む鹿児島島の川内原発のみです。

地球に放射能災害を起こすことを考えている人々や地球外生命体が狙っているのは、まさにこの場所です。

私達もスピリチュアルレベルで、原発に事故がおきないように常に守護していますが、光の世界に存在するプレデター型生命体も、この場所で事故が起きないように活動を始めたようです。

其のためにも、鹿児島島の政治や経済に携わる人達が、もっと真剣に原発廃絶のために立ち上がらないと、この光 51%~53% の世界で、原発の放射能事故が起きてしまうかもしれません。

同じようにプレデター型生命体を中心となる世界でも、光が 50% 以下の世界では、自然災害に加えて、第 3 次世界大戦も起こる事でしょう。

アメリカでも人種差別を好む大統領が生まれたりすると世界を 2 分するような戦いが繰り広げられます。

お互いの国同士が核兵器を用い争い、地球に修復不可能なダメージが与えられそうになります。

しかし、最後のレベルでスターピープルが介入し、地球の崩壊だけは避けられることでしょう。

ただ、地球の闇の世界は、なおも続くこととなり、そこに生きるプレデター型生命体は、光の世界に生きるプレデター型生命体に比べ、お互いを傷つけあうような残忍な学びを繰り返すことになるかもしれません。

第3章 第3回ファースト・コンタクト会議

PART1 「強欲の創造主」の後始末

プレデター型生命体に関する様々な問題を処理した後に、襲ってきたのは「強欲の創造主」の直接攻撃です。彼女は、「全ての根源の闇の創造主」のパートナーとして活躍していた創造主ですので、過去からこの世界に復活してきた後、私達を攻撃して地球のアセンションを妨害するための様々な方法を使って私達に関わってきます。

ある夜、スターピープルの母船が、私達の自宅の上空に集結していた時のことがありました。かなりの緊張状態にある状況ですが、その理由を尋ねても、アシュタールのエレナさんは答えません。いつものように、睡眠をとると、私達の意識が無防備になるという事で、私たちは眠ることもできずにアメリカのドラマである「スタートレック」のDVDをずっと見ています。

そして朝の9時ころ睡眠にはいります。

このころになると多くの人々の意識が動き始めて、安全になるようです。

しかし、その時間に問題が起こり始めました。

それは光53%に関わる特殊なスターピープル達が、私達の意識に介入する為に、予定よりも早く地球に入る計画があることを知らされたために、私達の仲間のスターピープル達が、私達を守るために集結していたのです。

彼等は本来、この光53%の世界にのみ関わり、その世界で生きる人々を導くために、地球にやってきたのです。

彼等は非常に高い叡智と技術力を持つ優秀なスターピープルです。

彼らは、アルクツールズ系列のスターピープルで、さほど悪意のある存在ではありませんが、光が強い存在を見つけると、彼らの独特の方法を使って手に入れるという習性があります。

その方法は、相手の意識に直接介入して、その人の好みの姿になり、その人の求めるものを全て与えて、自分の方に気持ちを向けさせ、自分と意識を統合させるという方法です。

その為に、地球に創造主の分身として生まれた私達の大きな光を見つけ、手に入れようと考えたようです。しかもこれは、「強欲の女神」から、そそのかされて行動していたようです。

彼等は、私達の意識に介入し、様々なアプローチを行ったようですが、スターピープル達の防御のおかげで、私達もだまされずに済みました。

このようにして、「強欲の女神」は、様々な創造主や地球外生命体達をだまして、幾度となく私達を襲わせたのですが、成功することはありませんでした。

そして、最後は自らの分身を使って、私達に直接攻撃を加えてきました。

眼にもとまらない速さで、私達に近づき、サイキックアタックを試みるのですが、「光彩の創造主」や創造主警備隊の力によって、その攻撃も阻止され、逆に別次元に隠れていた「強欲の創造主」の分身も見つけだされて始末されてしまいました。

PART2 第2回アセンション会議の報告

私達は、このようなゴタゴタがある中、6月18日アセンション会議の3回目を行いました。まず2回目の会議で決められたことが、どのように進められているかを報告してもらいます。皆さん、あまり晴れ晴れしい表情ではい所から、苦勞している様子が見受けられます。

エレナさんが、現在のアセンションの状況から話します。

「地球のアセンションは、世界の分離は順調に進んでいます。

現在は、光51%から光59%までの世界の細かい分離を行っています。

人々が共通で存在できる場所は狭くなり、各光の度合いに合わせて細かい分離が行われています。

もうしばらくは、どちらの世界に行くのかははっきりしていない人達でさえも、7月になる事には、はっきりと分かれてくることでしょう。

ただ、今、完全な分離を目の前にして、様々な創造主や地球外生命体からの最後の干渉が起こっていることも事実です。

私達も警戒網を強め、特に「強欲の創造主」によってコントロールされている者達への警備にあたっています。

その為に、ファースト・コンタクトへの準備が遅れていることも事実です。」

他のスターピープル達も、この「強欲の創造主」を中心としたすさまじい展開に疲れ気味です。

「私達は、前回の会議で、天使達と協力して、人々の意識に入り込み、スターピープルと人々のコンタクトをとる事とお母さんと子どもの間にテレパシーを使ったコミュニケーションを成立させることを目的として働きかけてきましたが、まだまだ地球の人々の心のブロックを打ち破るには至っておりません。

私達が思ったよりも、未だお母さんたちのハートの扉が固いようで、子供からのテレパシーを受け止めることが出来ずにいます。

お母さん達が、もっとわが子の心の声に気づいてくれるようになると、状況は変わってくるのですが……。」

エレナさんも言葉に詰まってしまいました。

私は、その人に奇跡的な体験をもたらしたり、病気の奇跡的な回復を行う事で、人々を宇宙意識に目覚めさせることを計画したエンソフにも成果を聴いてみました。

「私達も、様々な角度から試みていますが、思ったように成果は出ていません。

人々の意識の高揚感がなかなか得られないのです。

人々は、日常的な事柄に捕らわれてしまい、そこから目を離そうとしないので、私達も苦戦しております。」

私は「審判の創造主」にも聞いてみました。

彼は、地震などの自然災害を人類が体験し、そのことによって人類の連帯感を目覚めさせようとしています。

「現在、地球がいくつもの光の世界に分離されるにあたって、各世界で大きな地震や津波などの自然災害が起こっています。

特に光51%から54%の世界では、規模こそ違えども地震や津波によって多くの人が亡くなりましたが、これは、皆さんが肉体を失い、スピリットとして、自分のいくべき世界に行くために起こっています。

それは、いくつもの世界で同時に生きている皆さんのスピリットの分身たちが、スピリットの本体がある世

界に統合されるために、他の世界で死を迎えているだけです。自然災害を通して、自分の意識を目覚めさせることにはあまりつながっていないようです。」

どうやら皆さんの報告を聞いただけでは、状況は大きく改善されたとは言い難いようです。

PART3 人々の心に喜びを満たす事

皆さんからの報告が終わってから、これからどのような方針を取るべきかと話し合っていた時、一人のスターピープルが発言します。

「私達は、人々の意識を覚醒させるために、様々な試みを行っていますが、そのすべてが満足できる結果を出していません。

しかし、私達がこのよう話をしている間にも、地球の分離は毎日進んでいきます。

はやく地球人を目覚めさせないと、この地球の分離に人々のスピリットが追い付かず、大変な問題を引き起こしてしまう可能性もあります。

私は、地球人を観察していて一つの事に気づきました。」

彼女は、スターピープル達の視線が集まってきたことに、少しドキドキしているようです。

「それは、地球人の心には、喜ぶ心やときめく心が少ないことです。

人々の心の中を覗き込むと、苦しみや悲しみ、失望感で満ち溢れています。

自分の心を閉ざして、そのような感情を味合わないように、地球人は心にブロックをかけているのです。

ですから、人類の表情にも作り笑いばかりが浮かび、本当の笑顔が出ていないのです。

これでは、いくら天使達が声をかけても、人々は振り返ってくれません。」

他のスターピープルが尋ねます。

「私達も、そのことを感じているのですが、そのことを解決する方法があるのだろうか？」

先ほどのスターピープルにも明快な答えは出せないようです。

エレナさんが、彼女を助けるように答えます。

「この地球では、人類が作った苦しみや怒り、恐れ、不安、悲しみなどによって、地球人の潜在意識が大きなネガティブなエネルギーを作り出し、地球人の心を捕えてしまっています。

一人一人の気持ちをそこから引き離すことは、今の私達にはとても困難です。

地球人が、その事をしっかりと理解し、自分達の潜在意識を愛と喜びに変えていかなければ、人々はそのエネルギーに捕らわれ続けるでしょう。

そして一人一人の意識を、人間のネガティブな潜在意識から切り離していかなければ、人々は自ら望んでいる世界に行くことはできないでしょう。」

スターピープルの一人が言います。

「しかし、全ての地球人が、そのようなネガティブな潜在意識の虜になっている訳ではありません。

中には、いつもにこやかで楽しく、喜びに満ちた人生を送っている人達もたくさんいます。

私達もその様な人達と接するのはとても楽しいものです。

彼等は、何の苦労もなくスムーズに光の世界に入っていけるようです。

彼らも同じ人間なのですが、彼らはなぜ、地球人の集合意識にとらわれることなく、光の世界に行けたのか、

調べてみる必要があるのではないですか。」

「私も地球人として、多くの人と同じ現実世界で生きていますが、皆さんが考えるように、地球人の意識が一人一人大きく異なっているのも事実です。

それは、どのような種族や国家においても、一人一人の意識の差は大きく存在します。

それは、自分自身の経験や考え方から生み出されたものとしか言いようがないものです。

しかし、光の世界に行く人たちの共通の考え方や行動パターンを分析して、それを利用することは大変意味がある事です。」

私も話に加わっていきます。

スターピープル達が、自分達の考えを述べ始めました。

「私もそのように思えます。

人間一人一人が持つ感情によって、その人のスピリットや意識、あるいは肉体までもが変化していくのではないかと思います。

常に喜びや感謝の気持ちを持っている人達は、いつも安らかで心も体も安定しており、私達とあっても、さほど恐怖を持たずパニックになることもないようです。

しかし、不安や恐れ、怒りの感情が強い人は、私たちに会うと、自分の感情をコントロールできなくなりパニックに陥ってしまう可能性があります。

私達も、相手の感情や意識の状態を見極めながら、個別にコンタクトを行っていく必要があります。」

「やはり、人々の感情が落ち着くためには、自分自身の中で自分の問題点をきちんと解決できていることが必要ですね。

それが光の世界へと歩むための最低条件ともいえるでしょう。

自分の感情や意識が統合され、アンバランスでないことが大切です。」

「それでは、人々の意識を統合に向ける為にはどのようにしたらよいのでしょうか。

人間は物理世界で、毎日仕事や生活を通して、様々な人に出会ったりすることで思わぬ出来事に心を揺さぶられるものです。

私達は、どのようにしたら、彼らの意識を統合させ、光の世界へと導いていけるのでしょうか。」

スターピープル達はしばらくの間沈黙しますが、誰かが静かな声で話し始めます。

「人々の心に、もっと喜びや愛が満ちあふれたなら、彼らは怒りや憎しみ、恐怖に捕らわれることもなくなるだろう。

すると、そのような感情を利用して、人間をコントロールしようとする地球外生命体達にも影響をうけることも少なくなります。

そして、喜びや愛のエネルギーの中で自分自身を見つめ統合していくことでしょう。

喜びの心を持つ人達は、私達に出会ってもきっと喜んで迎えてくれるでしょう。」

多くのスターピープル達も納得しているようです。

スターピープル達は、地球の人々が、心に喜びを見出す事の大切さを確認し合っていたようです。

きっと、このために新たなプロジェクトが組まれることでしょう。

第4章 未来から来た地球外生命体達

PART1 地球の未来と地球外生命体達

私達は、6月20日過ぎ頃から、新たな問題に直面することになりました。

6月の初旬頃に、私達は、光43%から48%の地球の未来に存在するプレデター型生命体と大変な攻防を行っていました。

その戦いが終わって心を休める間もなく、新たな存在達が現れてきました。

それは、未来の地球を侵略して我が物とした地球外生命体達が、プレデター型生命体と共にアセンション前の地球にやってきて、自分達の支配を広げる為に活動を始めたのです。

地球は、そこに生きる人の考え方や行動によりいくつもの地球に分離していきます。

そして、その一つ一つの地球が、異なる未来を持っています。

光55%以上の地球では、困難はあるものの、おおむね平和な世界が作られ、人々は幸福な生活を楽しむことができます。

更に光60%以上の世界では、友好的なスターピープル達と共に、宇宙意識に目覚め、宇宙の平和のために共に活躍する未来が作られていきます。

光50%以下の世界では、地球は闇が多い世界となりますので、人々が支配し争いあう世界となります。

そこでは、光と闇の度合いに応じて、それぞれの地球に、異なる形で、様々な争いや抑圧、自然災害や戦争による過酷な生活環境が生まれてきます。

特に、光40%前後～20%台の地球では、地球の支配を狙う地球外生命体達によって、地球は侵略を受け、政府や国家が破壊され、地球人が支配される未来も生まれてきます。

しかも、光の度合いによって、地球の支配を行う地球外生命体も異なり、より過酷な未来を体験しなければならない世界もあります。

私達が、今回遭遇しているのは、未来の地球を支配している地球外生命体達です。

彼等は、地球を支配下に置いた後、地球の過去を調べると、2016年に起こるアセンションの前までは、光の世界と闇の世界がまだ切り離されておらず、どのような世界にも自由に関わることが出来ていたという事を知ったのです。

そして、その時に支配していた地球人の遺伝子を基に、過去の時代に生きていた人類に入り込み、その人達を通して、未だ分離していない地球を支配する事や光の世界に入り込む事が可能であると考え、私達の時代にやってきました。

地球が、アセンションを完全に終えてしまえば、光の世界も闇の世界も細かく分離され、お互いの世界が干渉しあう事が出来なくなります。

私達は、地球が光の度合いに応じて細かく分離される状態を、1%ごとに分けて表現していますが、光が1%でも違えば、他の光の度合いの人とは完全に分離され会えなくなるのです。

地球がアセンションした後は、地球に関わってくる地球外生命体は、分離された後の一つの地球にしか関わ

る事が出来ません。

地球の人と有効な関係を保ち、お互いを成長させようとする地球外生命体達は、そのような考えを持つ人達がいる世界と関わります。

しかし、地球を侵略しようとする地球外生命体は、ディセンションした世界の存在ですから、自分達の波動と同じ波動を持つディセンションした地球にしか関わる事が出来ません。

しかし地球外生命体が時間をさかのぼって、2016年に起こるアセンションより前の地球に来ると、地球の物理世界に生きている人を通して、これからディセンションする地球にもアセンションする地球にも両方関わる事が出来るようになります。

今回私達が戦った地球外生命体は、現在よりも1000年～2000年以上先の未来から来ていますので、現在の地球人に比べて、問題にならない程知性も高く様々な能力を持っています。

彼らにすれば、地球人をだまして、自分達に服従させ、自分達の目的を果たすことなど簡単な事なのです。そして、光の世界に入り込むこともできるようになります。

地球人をだますために必要な事は、地球人の欲望を満たしてあげる事だけです。

人を支配したいという欲望を持つ者は、政治家にして支配欲を高め、自国の少数民族を虐待したり、力が弱い国と戦争させたりすれば、彼等は大喜びします。

あるいは、普通の人を持たないような特殊な能力を与え、自分が特別な存在である事を誇示させればよいのです。

また金銭欲に捕らわれている地球人には、人々をだます能力を与え、株式や詐欺を行う能力、ブームを作れるような商品を開発させる能力等を与えて、経済的に成功させてあげればよいのです。

あるいは、優れたIT能力を使って、地球の情報操作を容易に行う事に喜びを見出す者もいます。

欲望を持つ人は、欲望をかなえてくれる存在に対して盲目的に服従しますので、地球外生命体は、そのような人を使って、その人の意識をコントロールし自分達の目的を果たします。

そして、未来から来た地球外生命体は、アセンション前の地球で多くの人々のスピリットをコントロールして地球の人類と一体化することで、特定のディセンションした地球だけでなく、いくつもの世界に分かれる複数の地球にも関われるようになります。

彼らの能力をもってすれば、そのような世界を支配し手に入れることは簡単なことです。

うまくいけば、光の世界に行く人々の意識を利用して、自分達も光の地球に入ることが出来ます。

2016年の時代において、いくつも分離した地球の多くに自分達の種族を存在させることが出来れば、自分達は特定の光の度合いの世界だけでなく、多くの世界を支配することが出来ます。

すると、自分達が来た未来に比べると、各段に大きな支配力と支配した世界を持つことが出来るのです。

彼らが、もし光の世界に入り込めば、光の世界の中に大きな闇のエネルギーが生まれ、光のバランスが崩れてしまいアセンションそのものが崩壊してしまいます。

光60%以上の世界は、地球以外の星から来たスターピープル達が地球人と協力して、天の川銀河の平和のために活躍することになっているのですが、そのようなディセンションした地球外生命体が、この時期に光の世界に紛れ込んでしまえば、現在の地球人はもちろんスターピープル達も対処できなくなります。

そうなれば、やがて地球は、彼らに支配され、天の川銀河の平和にも大きな影響が出てしまう事でしょう。

未来から来てその時代に干渉し、未来を変化させることは、宇宙の法律で固く禁止されていることですが、ディセンションした地球外生命体や闇の世界の創造主にとっては、その法律を無視することは当然の事です。彼等は、自分達の欲望に基づいて生きていますので、どのような方法を使用しても自分達が支配できる世界を広げようとしてくるのです。

私達にとっても、未来の地球を支配する地球外生命体達と、地球と宇宙の未来をかけての戦いとなりました。

PART2 ディセンションした世界の連合軍

私達が最初に遭遇したのは、ちょうど「強欲の創造主」に悩まされて、その処理が終わった頃の事でした。私達は、夜になると自分達の意識が眠りに入るので、その時を狙われてサイキックアタックに会うことが良くあります。

私達を守護してくれる存在もいるのですが、私達がサイキックアタックを受けている間に、その相手を特定して捕まえるという方法を創造主達やアシュタールは良く行いますので、サイキックアタックは弱まる事はあってもなくなることはありません。

言うならば、私達は、おとりのような存在ですが、そのような方法を取らなければ、この物質世界に隠れている地球外生命体達や闇の創造主達を捕まえることはできないようです。

その日も、夜の23時を過ぎたころから大きな異変が起こり始めました。

私達が7月に行われる選挙の話をしていた時に、急に息苦しくなり、頭痛がしてきました。

これは何か、日本の人達に影響を与える地球外生命体達が動いている可能性があります。

私達は、私達に送られているエネルギーを、アシュタールや創造主達に調べてもらう事にします。

すると、この地球の物理世界に生きている人を通して、ディセンションした世界から地球外生命体達が、私達にエネルギーを送ってきています。

きっと、私達が政治家の事を調べることにより、自分達の存在がばれてしまう事を恐れて、私達に攻撃を仕掛けてきたようです。

しかし、彼等は、私達に対して攻撃を行う事によって反対に自分達の居場所を明かしてしまう事になります。

私達は、彼らの居場所を見つけると、創造主警備隊、宇宙警備隊、地球警備隊の3つのグループを呼び出します。

そしてアシュタールを中心としたスターピープル達、時としては、天の川銀河の各星座の騎士団などにも協力してもらい、相手を逮捕する為に、彼らのエネルギーを伝って彼らのもとに生きます。

警備隊には、それぞれの特徴があり、地球で起こっていることを主に調べ警備するのは地球警備隊ですが、現在は、さまざまな星からたくさんの地球外生命体達がやってきましたので、地球警備隊では手におえないことがたくさんありますので宇宙警備隊が主力となって働いています。

創造主警備隊は、地球外生命体全般を取り締まることが出来ますが、さらに地球外生命体達を操っている創造主や地球に無理やり入り込もうとしている別の宇宙の創造主達を取り締まります。

また、地球に介入してくる地球外生命体達から地球を守護し、アセンションを成功させる役目を持っているのがアシュタールと各星からやってきたスターピープル達です。

彼等は、地球に来る地球外生命体の素性を調べ、それが適正な者かどうかを判断します。

適正であれば、共に活動しますが、もしそのもの達が適正でなければ排除されます。

この日の夜、私達にサイキックアタックを行ってきたのは、へびつかい座のディセンションした星の地球外生命体達でした。

しかし調べていくと、彼等と協力関係にある地球外生命体がたくさん存在している可能性がうかがえます。その時も、彼らの単独行為ではなさそうです。

私達は、宇宙警備隊とアシュタール、そしてスターピープル達におねがいして、仲間の地球外生命体達や彼らを操っている存在を見つけてもらう事にしました。

そして、創造主警備隊には、この地球外生命体達を地球に送りこんだ創造主や私達の活動を妨害しようとしている創造主がいないか探してもらいます。

しばらくすると、アシュタールのエレナさんが困った顔をしてきます。

「TAKESHI さん、このグループはいくつもの地球外生命体達の連合体のようですね。

へびつかい座の地球外生命体だけでなくみずがめ座や大熊座、ウミヘビ座の地球外生命体もいました。

以前、私達が処理した「偽アシュタール」に組織の作り方が良く似ていますので、きっと異なる次元に存在する「偽アシュタール」だと思いますが、以前処理したグループよりもさらに進んだ技術や能力を持っているようですので、さらに強力かもしれません。」

私は、エレナさんの言葉を聴くと、天の川銀河の各星座の騎士団にも応援をお願いしました。

天の川銀河連合のケンタウルス騎士団や狼騎士団、しし座のレグルス騎士団、へびつかい座のドラゴン騎士団も応援にきてくれます。

もちろん、大天使ミカエルと漆黒のドラゴン騎士団も、私達の活動に加わってくれます。

私達は手分けして、各星座のディセンションした地球外生命体達を見つけだし、その基地を探し出していきます。

警備隊や騎士団の働きでいくつもの基地が見つけたされましたが、基地を調べていたアシュタールが、不思議そうな顔をしています。

「彼らの基地で使用されている機械は、今の時代の物ではないようです。

とてもシンプルですが、私達が使用しているものよりもはるかに高度で優れています。

これは、どうしたことでしょうか。」

アシュタールは、捕まえた地球外生命体に尋問をはじめました。

すると、彼らは、現在の宇宙から来たのではなく、およそ 1000 年後の未来からこの地球に来たことが分かりました。

つまり、未来の闇の世界に君臨している「偽アシュタール」のグループが、2016 年の地球に来て、地球人を支配し、そこから自分達の支配を拡大しようと計画していたようです。

未来から来た「偽アシュタール」は、2016年当時の政治家や科学者の意識と自分達の意識を同調させることで、人間の中に入り込み、地球を支配しようと考えていたようです。

もちろん、地球人の政治家の中には、彼らが来る前からすでに地球外生命体と同調し、核兵器の使用や戦争を引き越そうとしている者達もいるようですが、この未来から来た「偽アシュタール」と同調してしまえば、現代の私達には止めるすべもなくなりますし、地球の政治家たちと「偽アシュタール」の攻撃で地球のアセンションも失敗してしまいます。

また地球も、核兵器を使用した戦争や原発の放射能もれによって、人々が住めないような環境に変わっていくことも考えられます。

しかし、彼らは地球人を放射能の中でも生きることが出来るように改良し自分達の奴隷として使用していくことでしょう。

そして、地球の特性を利用して、早い段階から天の川銀河の様々な星へと出向き侵略行為を行う事でしょう。その為には、アセンション前の地球を利用することが都合がよいのです。

私達は、創造主やアシュタールをはじめ宇宙警備隊たちの協力を得て、この時代に来ている地球外生命体を逮捕していきました。

スピリチュアルなレベルで存在している者達は、創造主の力を借りて光に返していきます。

人間と同化してしまった地球外生命体は、本来の能力や知恵を制限されますので、光の世界に関われない場所へと分離していくことが出来ます。

PART3 未来から来た地球外生命体を操る創造主

私達が地球外生命体達を処理している時に、創造主の一人から連絡が入りました。

「TAKESHIさん、やはりこのグループには闇の世界の創造主が関わっていました。彼の計画によって、1000年後の地球から、この時代にタイムトラベルをしてやってきたみたいです。」私達は、急いで捕まえられた創造主のもとに走ります。すると、そこには不機嫌そうに創造主警備隊を怒鳴りつけている闇の創造主がいます。

私は、「全てのゲートを管理する創造主」に、この創造主の裏につながるゲートを全て開くようにお願いします。

おそらく、この創造主はあまり力を持っていないようですので、更に上位の創造主に使われているだけの創造主だと思ったからです。

「TAKESHIさん、やはり大きなゲートがありました。これは、私達の宇宙を出て、他の宇宙につながっているようです。ここは、ディセンションした世界だけに、どれだけ大きな闇の世界につながっているかわかりませんが、すこし厄介ですね。」

私達が存在する光の世界では、すでに他の宇宙に存在する創造主が、私達の宇宙に関わる事は禁止されていますが、ディセンションした地球では、まだ自由に関わる事が出来ます。

しかし、それはディセンションした世界を超えて、光の世界に影響を及ぼしてはいけないというルールがあ

りますので、地球に生きる人々をとおして、光の世界に入り込み、私達に干渉してくることは法律違反となってしまう。

私達は、全ての宇宙に関わる事が出来る「光彩の創造主」にお願いして、ゲートがつながっている宇宙に入っていくことにしました。

捕まえた闇の創造主からつながるゲートを伝えていくと、私の心に寒気が伝わってきます。

何か厄介な問題が待っているのではないかという不安です。

私達の宇宙とは、異なる宇宙に入っていくと、そこはとても闇が多い世界です。

暗く重たい夜のような世界ですが、その中にまるで獲物を狙う狼のような目がいくつも光っています。

私達は更にゲートを伝えてくと、闇の奥に驚くべきものを見つけます。

それは、光と闇の創造主の最終決戦で光に返したはずの「根源の闇の世界の創造主」の姿でした。

光の創造主達が、驚きのあまり凍り付き、言葉を失います。

おそらく光に返される前の世界から、再び連れ戻され、この世界に隠れていたようです。

私達は、顔を見合わせ、急いでこの世界から出ます。

私達が一度も来たことがない闇が多い世界で、「根源の闇の世界の創造主」と闘う事は、どう考えてもリスクが多すぎます。

彼等はいくつもの罟を仕掛けている可能性もありますし、多くの仲間たちが私達を取り囲んでいる可能性もあります。

考えてみれば、「根源の闇の世界の創造主」のパートナーである「強欲の女神」が生き返って、私達を苦しめていた訳ですから、「根源の闇の世界の創造主」が生き返っていないはずはありません。

この世界の創造主は、おそらく光と闇の創造主の最終決戦の前の時代に戻り、そこから「根源の闇の世界の創造主」を連れ出して、今の時代によみがえらせたと思われます。

この問題を解決するためには、その時を狙い「根源の闇の世界の創造主」を連れ出すことを阻止することで、今の状況を大きく変えることが出来るかもしれません。

私は、「記憶の創造主」と「予測の創造主」を呼び出し、いつの時代の「根源の闇の世界の創造主」を蘇らせたのか、予測を立てさせます。

「予測の創造主」の予測では、おそらく私達が、自分達の宇宙を出て、多次元宇宙の創造主達に出会ったころのようです。

私達は多くの創造主と共に、フェニックス号で時間をさかのぼりその時代に戻ります。

私達が姿を隠して見張っていると「根源の闇の世界の創造主」が隠れていた宇宙を司る創造主の一人が現れます。

彼は時間と空間を自由に操る能力を持っている創造主のようです。

彼がここに現れるという事は、光と闇の創造主の最終決戦の時、様子を見ていち早く逃げ出したのかもしれませんが。

私達は、彼が時間と空間のひずみから、「根源の闇の世界の創造主」が生きていた時代に入ろうとした瞬間、彼を捕えます。

彼は、私達の姿を見ると慌てて逃げ出そうとしますが、周りを取り囲んでいた光の創造主によって捕えられ

てしまいました。

彼が、この時代から「根源の闇の世界の創造主」を復活させようという試みは失敗に終わりました。

「根源の闇の世界の創造主」の存在が消えることで、異なる宇宙に存在していた「根源の闇の世界の創造主」の存在も消えていきました。

そして、地球のディセンションした世界の創造主も力を失い、未来から来ていた「闇のアシュタール」の姿も次々と消えていきました。

しかし、またいつか、誰かがきつと「根源の闇の世界の創造主」を復活させるかもしれません。

私は、「光彩の創造主」にお願いして「根源の闇の世界の創造主」が二度と復活できないようにお願いしましたが、やがて新たな時が巡ってくると、新たな「根源の闇の世界の創造主」が生まれてくることになるようです。

それが、おそらく多彩な宇宙の法則なのでしょう。

PART4 多次元の黄泉の世界のゲート

私達が良く直面する問題に「黄泉の世界」があります。

ここは、肉体を失った魂が、自らの魂をクリアーにするために戻ってくる場所です。

魂は、地球での学びがすべて終了したと思えば、地球での転生を終了し、スピリットの本体に戻る事が出来ます。

しかし、地球での学びが終わっていないと考えるならば、この場所で現在の自分が持っている記憶や能力をリセットして新たな肉体を得て地球に生まれ変わってきます。

黄泉の世界は、魂たちがこれからの事を決める為の場所でもあります。

しかし、自分が生きてきた今までの人生や愛する人たちに対する思いが、強く残る人は新しく生まれ変わることも、スピリットとして地球から旅立つこともできません。

ただ過去の思い出を求めてさまようことになります。

闇の世界の存在達の中には、そのような中途半端な者達を利用し、生きている人々を黄泉の世界に引き込んだり、生きている人々に不要なエネルギーを送ってその人生に大きな影響を与えようと考えている存在もいます。

私達は時折、多くの死者たちに追い掛け回されることがありました。

それは、死者を操る者が、私達の光りを奪えば、今迄の人生に生き返ることが出来るというような偽りを、多くの死者たちに伝えたからです。

現世に思いを残す者たちは、集団で私達の光を奪いに来ましたが、創造主達の強い光りで彼らは追い返されてしまいました。

今回も、黄泉の世界の者達が、私達に攻撃を仕掛けてきました。

私達の中に、亡霊のようなイメージを送ったり、理由のない恐怖や喪失感のエネルギーを私達の心に送り込んでくるのです。

私達は、これらの事にはもう慣れていますので、すぐに原因を調べます。

するとディセンションした地球の黄泉の世界から、そのエネルギーが送られてきていることにすぐ気づきました。

黄泉の世界は、「月の創造主」に属する女神の中でも光が少ない世界を収めることが出来る「有明の女神」達が統治している場所です。

私達は黄泉の世界に入り、「有明の女神」を呼び出しますが「有明の女神」は私達の前に現れてきません。その時、他の創造主からも連絡が入り、黄泉の世界にいるはずもない地球外生命体達が発見されたことを伝えてきました。

私達は、闇の世界を司るマスターであるマーベリックとアメリアに助けを求めて探してもらいました。

すると黄泉の世界の奥深くにこの時代の世界にいるはずもない地球外生命体達が存在していました。

「記録の創造主」を呼び出して調べてもらうと、やはり未来のディセンションした地球にやってきた地球外生命体のようです。

彼等は人々の魂のエネルギーを求めて、未来の地球にやってくるようになっていたのですが、その時代から、さらに多くの魂を求めて、今の時代にやってきたようです。

どうも、私には受け入れがたいグロテスクな姿をしています。

私達は、「審判の創造主」達に頼んで、この世界にやってきたグロテスクな地球外生命体を光に返してもらいました。

しかし、彼らがいりこんでしまった世界は、ここだけではないようです。

黄泉の世界を統治している「有明の女神」がまだ見つかっていないのです。

私達は、このディセンションした世界を中心に、少しずつ光の度合いが異なる世界を探し回りました。

すると、いくつかの異なる次元に存在する黄泉の世界に彼らが存在していました。

そしてその中でも、最も闇が深い世界で「有明の女神」とこの黄泉の世界を支配しようとする地球外生命体の親分が見つかりました。

この特殊な地球外生命体を率いていたのは、まるで憎しみや恐怖の感情が生命となったような存在です。

恐ろしいほどの醜悪なエネルギーを放っています。

私は、「審判の創造主」にお願いして、彼らのグループを光に返してもらい、「有明の女神」を救い出すことに成功しました。

私達は、彼らが未来から来たゲートを次々と閉じ消滅させていきました。

そして、黄泉の世界を最終的に管理する「月の創造主」のもとに生き、黄泉の世界の管理を強化する為に、新たな統治者のグループを作ってもらう事にしました。

「月の創造主」は喜んで、私達の望みを聴いてくださり、「審判の創造主」「真眼の創造主」「大天使ミカエル」「大天使アズラエル」などの力を借りて、さらに強力な黄泉の世界の統治者グループをつくりだすこととなりました。

黄泉の世界は、とても特殊な世界ですので、私達もしっかりと管理していかなければならないようです。

第5章 「サイレント・メタル」の恐怖

PART1 ITを支配する未来の地球外生命体

私達の世界ではスマートフォンはなくてはならない便利な機器の一つですが、今、このスマートフォンやパソコンなどの利便性や娯楽性に心を奪われている人達がとても多くなってきました。

私達が、今回最後に処理したのは、実はこのようなテクノロジーを使って人の心を支配しようとする「サイレント・メタル」とよばれる地球外生命体達でした。

彼は非常に巧妙に私達の世界にはいりこんでいます。

ポケットベルから携帯電話、スマートフォンへと少しずつ電子機器を進化させ、私達が不信感を抱くことなく、これらの機器の虜になるように仕組んできたのです。

私達は、それが文明の進化であると思い、それを受け入れ利用してきました。

たしかに、生活は便利になり、多くの人々がその恩恵を受け取ることが出来ました。

しかし、彼らの目的は、このような情報や娯楽を与える機器によって人々の心をとらえ、人間の感情と人間的なコミュニケーション能力を奪う事でした。

人々は面と向かって会話をすることやコミュニケーションをとることに興味を失い始めました。

そしてメールやラインなどを使って、自分の言葉や思いを代弁させる事やインターネットゲームなどの仮想現実の中で時間を過ごすことを楽しみ始めたのです。

スマートフォンの虜になった人は、現実的な世界の中で、自分の感情や意思、判断力をしっかり持つことを忘れはじめます。

そしてスマートフォンへの依存心が強くなるとやがては「ノモフォビア」と呼ばれるような精神状態になり、スマートフォンがないと精神的なパニック状態を越しやすくなることも知られています。

彼等は、スマートフォンやパソコン、インターネットのシステムなどの製作や運営を行う人たちを通して、この現実世界に関わっています。

そして、彼らが構築する仮想世界を現実世界とすり替えようとしているのです。

彼等は、さらにスマートフォンに対する人々の依存心を利用して、人々の心を支配しコントロールすることを考えています。

彼等は、やがてスマートフォンなどを通して、人類に指令を与えるようになるでしょう。

そして、将来的にはスマートフォンのような機器を人間の頭脳の中に組み込む事も計画しているようです。

私達は、この宇宙の中で多くのマスターや創造主達を救ってきましたが、多くのマスター達が、後頭部に間の創造主達からコントロールチップをつけられ、自分の意志とは全く関係のない行動をとらされていたことを良く知っています。

しかも、このコントロールチップは、マスター達だけでなく、地球の人類にもたくさん埋め込まれており、地球の人々を監視しコントロールしてきました。

私達は、それをコードやゲートという言葉で表現してきました。

たしかに、コントロールチップは、反物質的な世界には多数存在しますが、物質的な世界にはまだ一般的ではありません。

しかし地球の未来から来た「サイレント・メタル」と呼ばれている地球外生命体は、現実世界でそれらのコントロールチップを開発し、地球の人々の脳に埋め込もうとしているのです。

彼らがこれから行おうとしていることを推測すると、人々を機器によってコントロールすることは、決して難しいことではないでしょう。

「サイレント・メタル」は、今まで有料で使用されていたスマートフォンを自分の脳の中に組み込むことによって、半永久的にいつでも、そしていつまでも、スマートフォンの全ての機能を無料で使えるようになるので、皆さんの脳の中に組み込ませてください。というだけです。

スマートフォンに依存している人は大喜びです。

頭の中で、スマートフォンのスイッチを入れるだけで、好きなだけインターネットができるし、他の仕事をしている時もやりたいゲームを行う事もできます。

ラインのようなアプリを使って楽しむ事や音楽を1日中聞いている事もできます。

しかし、頭の中に組み込まれたスマートフォンは、いつしか人々に独自の指令を出すようになります。たとえば、朝起きたらこのように皆さんは言うでしょう。

「今日、私は何をしたらいいの？」

「今日は、朝起きたら仕事に行って、事務処理を行い、今度のキャンペーンの企画を作ってください。」

「今日は、ゲームセンターに行行ってゲームをしましょう、その後は友達を誘って御飯です。」

人類は、やがて、誰かに頭の中に入れられたスマートフォンを通して指示を受け実行するようになります。現在は、スマートフォンに搭載している音声機能に皆さんが質問したり指令を出したりしますが、やがて逆の立場になっていきます。

やがて指示はこのように変わるでしょう。

「今日は兵器工場に行行って高性能のレーザー銃を作ってください。」

「今日は、そのレーザー銃を持って、移民の町に行き、好きなだけ人を殺してください。」

「今日は、宇宙船にのって近くの星に行き、その星の人達を殺してください。」

おそらく、私がそのように言っても多くの人は信用しないかもしれませんが、これは現在地球でも、一部のテロリストたちが、通常行っていることです。

ただし彼らはスマートフォンの代わりに洗脳教育を行います。

現在の地球にやってきた「サイレント・メタル」は、おそらく2000年から3000年先に地球にやってきた地球外生命体です。

現在の私達に比べて、問題にならないほどの知性と技術力を持っていますので、このような方法で地球人を支配することは、彼らにとってみればとても簡単なことです。

そして彼らが考えていることは、地球人を人工的な兵器のように扱う事です。

アメリカのドラマである「スタートレック」には、半分知的生命体、半分機械という設定の存在が現れます。彼等は「ボーク」とよばれ、ひとりひとりが「ボーク」の集合意識につながれ、集合意識の指示によって人々を殺したり、宇宙船を破壊したりします。

そして最後は、地球のような知的生命体が生きている星を侵略してしまうのです。

「サイレント・メタル」が、考えていることもまさに同じことです。

彼等は、人間から感情や良心、愛する心を奪い取り、ただ命令に従順に従うだけの機械人間をつくりだします。

「サイレント・メタル」が生み出した「メタル・チュードレン」は、今まで私達が手を焼いていた「ナソール・チュードレン」をさらに改悪したものとなり、地球人と同化させることで、完全に地球人の多くを支配できるようになるでしょう。

そして彼らは、強大な軍事力と技術力を背景に、多くの星々へと侵略をはじめていきます。

彼らが、2000年先の未来から、私達の時代に来ることで、2016年の地球を手に入れ、西暦4000年時点の自分達を、2000年前にさかのぼって進化させていくこととなります。

そして地球のアセンションを止めることで、この地球が様々な世界へとつながっている状態を維持します。

「サイレント・メタル」は、この地球の特性を使用して、大量の軍隊や軍事力を持って、天の川銀河の星々を侵略していこうとするでしょう。

しかし「サイレント・メタル」に対抗できる地球外生命体やスターピープル達はほとんどなくなり、宇宙は彼らによって支配され、光の世界そのものが消滅してしまう事でしょう。

これは、彼らが持っている計画や情報から得られた未来の予測ですが、2016年の時点で「サイレント・メタル」を処理しなければ、まず地球のアセンションは成功しないと思われます。

これは、あくまでの恐ろしい未来予測ですが、現実世界で起きる可能性がある事です。

PART2 「サイレント・メタル」の襲来を阻止

私達は創造主を含めてアセンション評議会で「サイレント・メタル」の対策を検討する事にしました。

地球のテクノロジーが進んできたことは、自然の成り行きですし、地球の人々にとっても必要なことですので、彼らを含む地球外生命体達の介入をすべて否定する事はできません。

しかし「記録の創造主」に調べてもらおうと「サイレント・メタル」達が、地球人を支配することを目的に、未来から大量に入ってきた時期があることが分かりました。

それが今から1年ほど前、2015年の春の頃のようにです。

私達は、「サイレント・メタル」がこの2015年から2016年にかけて大きな活動をする前に、彼らの動きを止めたいと思いました。

その為に、彼らが未来から地球にタイムトラベルしてきた時点で、彼らを捕えることにしました。

私達は、「予測の創造主」と「記録の創造主」に、彼らがやってくる時間と場所を割り出してもらい、私達もフェニックス号でその場所へ移動して待ち構えることにしました。

私達が時をさかのぼり予測された時間に着きましたが、2人の創造主達が何やら相談しています。

どうやら、「サイレント・メタル」が到着する時間は同じようですが、地球のいくつもの地点に同時に降り

てくるようです。

その場所は世界の IT の中心企業や宇宙基地、科学研究所などがある場所で、かなり多岐にわたっています。おそらく、「サイレント・メタル」はすでにターゲットとする人や研究所などを定めておいて、そこに直接入り込む計画を立てているようです。

私達は、創造主警備隊、宇宙警備隊、地球警備隊そしてアシュタールとスターピープル達を引き連れて、この時代にやってきましたが、数 10 か所に分散するとなると人手が足りないようです。

私達はすぐに、天の川銀河の各星座の騎士団、光の創造主が直接持っている月光の騎士団や太陽の騎士団、そして創造主達にも応援をお願いすることにしました。

もちろん大天使ミカエルと天使の軍団や漆黒のドラゴン騎士団たちも駆けつけています。

私達は各チームのリーダーを中心に混合チームを作り、「サイレント・メタル」が降りてくる場所に配置させます。

そしてアシュタールのグループは、地上ではなく地球を取り囲む宇宙空間を宇宙船で巡回しながら警備をしてもらう事にしました。

おそらく彼らの一部は、地球に降りるのではなく、地球の周回軌道に宇宙船をつけ、そこから地球におりた「サイレント・メタル」達に指示を出す可能性があるからです。

「サイレント・メタル」達がやってくる時間が近づいてきました。

各施設の上空で待機しているメンバー達にも緊張が走ります。

各施設のいたるところで、まるで光の扉が開くように、静かにゲートが開きます。

そしてそこから、反物質的な姿をした「サイレント・メタル」達が少しずつ出てきます。

彼等の技術力は大変高いので、大掛かりな装置なども使わずに、まるでスタートレックなどのドラマに出てくる転送装置のようなものを利用して地球に降り立っています。

もしかしたら、地球の上空に、未来から来た大きな宇宙船があり、そこから地上に転送されている可能性もあります。

その時アシュタールからも連絡がありました。

地球を取り囲むように 3 か所に大きな人工衛星のようなものが現れたので、それらを送り来んできた宇宙船を探しているという事でした。

私達は、地上にいる部隊たちに指示をだし、地球上に転送されてきた者達をつかまえました。

しかし、このままではすぐに宇宙船に戻されてしまいますので、空間の創造主に頼んで特別な空間を作り、そこに急いで送り込みます。

そうすることで、「サイレント・メタル」の宇宙船と確実に分離し、彼らを拘束することが出来るからです。

私達は、宇宙警備隊をすぐにアシュタールと合流させました。

「サイレント・メタル」達の宇宙船を発見できればすぐに、その宇宙船に乗り込まなければなりません。

「予測の創造主」に、この 3 つの人工衛星のような機器から「サイレント・メタル」の母船の位置を割り出しもらい、アシュタールにその座標を送ります。

アシュタール達は、「サイレント・メタル」の宇宙船を見つけたようです。

アシュタールのエレナさんから連絡が入りました。

「TAKESHI さん、やっと彼らの宇宙船を見つけました。

私達の技術では到底見つけられないような場所にシールドを張って隠れていましたが、「予測の創造主」が示してくれた座標に行き、エリシタール星人にお願いしてそのシールドを解除してもらおうと、彼らの宇宙船が現れてきました。

彼等も、私達の姿を見ると、驚いて攻撃をしようとしてきましたが、私たちはその攻撃を受けることはありませんでした。

今、彼らの宇宙船に入り込む方法を考えています。」

アシュタールは、地球に関わっている通常のメンバーだけでなく、かなり多くの部隊がこの時のために結集しているようです。

きっとエレナさんが、宇宙の未来をかけて大きな戦いになることを予測してアシュタール本部と連絡を取り部隊を集めていたようです。

アシュタールの中心的な宇宙船の多くが「サイレント・メタル」星人の宇宙船を取り囲んでいる様子が送られてきました。

「TAKESHI さん、これからアシュタールと宇宙警備隊のメンバーが「サイレント・メタル」の宇宙船に入ります。

「サイレント・メタル」の宇宙船の動力を、エリシタール星人がとめたようですので、私達は彼らの船に、メンバーを転送して、彼らを逮捕します。」

アシュタールと宇宙警備隊の宇宙船から、同時に何人もの武装したメンバー達が「サイレント・メタル」の船に送り込まれていきます。

「サイレント・メタル」の宇宙船は動力がとめられているために、アシュタールと宇宙警備隊に対抗できないようです。

やがて宇宙船に乗っていた「サイレント・メタル」の多くが捕まりました。

彼等は、過去の世界に介入し、未来を自分達の都合がよいように作り変えようとした、という理由で宇宙警備隊に拘束され、一部は創造主によって光に返されていきました。

「サイレント・メタル」の宇宙船を見たアシュタールは、その技術力の高さに驚いています。

彼等は、この宇宙船についてもっと調べたいようです。

地上の警備隊や騎士団も、「サイレント・メタル」達の多くを捕えたようです。

中には私達が待ち構えていることを知り、捕まる前に逃げ出した者達もいるようですが、すでに彼らの基地となる宇宙船を私達が抑えてしまったので、彼等は帰る場所を失いました。

しかし「サイレント・メタル」は、私達の知らない能力をたくさん持っているのです、残っているメンバー達もやがて一つに集まり、行動を起こしてくると思われれます。

しかし、2015 年の春の時点で、「サイレント・メタル」の侵入を防ぐことが出来ましたので、地球は本来のあるべき未来へと戻っていくことが出来ます。

もちろん、逃げ出した「サイレント・メタル」は決して黙っている訳ではありません。

すぐに自分達のグループを残っているメンバーで立て直し、反撃を行ってきます。

私達も、アシュタールを中心に地球警備隊と共に応戦します。

あるグループは、私のパソコンに大量のウイルスメールを送ってきたり、地球に生きている人を通してサイキックなタックを仕掛けてきます。

中には、ディセンションした世界の「強欲の女神」と組んで私達の意識へ介入してこようとしています。

その中でも、最も大変だったのは、「サイレント・メタル」達が、この地上に闇のドラゴンを解き放ったことでした。

大天使ミカエルたちが仕事をしていると、突然横から大きな闇のドラゴンが出てきたことに驚かされたようです。

調べてみると、地球のコアにも闇のドラゴンが送り込まれ、エルエル達が応戦しています。

私達はすぐに、高位のシェンロン達に応援を依頼して、コアを守るサポートを行ってもらいますが、闇のドラゴン達は、地球のコアだけでなく地球各地のスピリチュアルな次元に同時に現れ、地球のエネルギーを混乱させているようです。

おそらく、このドラゴン達によって、地球のエネルギーを不安定にさせ、アセンションを崩壊させるつもりだったようです。

地球の様々な場所に解き放たれた闇のドラゴン達を一頭ずつ片付けていっても時間がかかります。

時間をさかのぼって闇のドラゴンが、地球に現れた時期に戻っても、世界の各地で同時に現れていますので、その場所全てを網羅することはできません。

それならば、私達は、このドラゴン達が送り込まれた場所を特定して、そちらの方からドラゴン達を処理したほうがよいのではないかと話をしました。

私達は、ドラゴンが送り込まれてきた場所を探し始めました。

するとこれらのドラゴンは、地球ではなく、アルクツールス星系にあるディセンションした星のひとつから来ていることが分かりました。

しかも、その星は、「サイレント・メタル」星人たちの故郷でもあったのです。

アルクツールス星系は、科学技術が進歩した星が多く、さらに魔法や錬金術などの自然科学と呼ばれる領域にも深い造詣と特殊の知識を持っています。

アルクツールス星系は、以前にアセンションを迎えていますので、スターピープルとなった者達は、これらの叡智と技術を宇宙の調和のために使用していますが、同じ星でもディセンションした者達は、これらの技術を自分達が他の星を支配する為に使用しているのです。

「サイレント・メタル」星人たちは、科学技術だけでなく、ドラゴン達の利用法なども心得ているようです。この星系に存在する闇のドラゴン達は、通常のドラゴンよりも高い魔力と破壊力を持っていますので、いったん地球上に解き放たれてしまえば、地球のドラゴン達ではなすすべもありません。

私達は、アルクツールスのスターピープル達にも手伝ってもらって、この闇のドラゴンが地球に送り込まれないように計画を立てていきます。

アルクツールス星系のスターピープルのリーダーが私に報告してくれます。

「TAKESHI さん、彼らが闇のドラゴンを地球に送りこむために使用していたゲートを発見しました。これはとても高度で大きなゲートです。

私達の力で消滅させることは、宇宙に大きなひずみを作る可能性があるので危険です。」

私達は、このゲートの処理方法を見つけなければなりません。

「しかし、このゲートを何とかしないことには、地球に多くの闇のドラゴンが来てしまいます。何か方法はありますか。」

「できるとすれば、このゲートの行先を地球ではない別の場所に向けることです。それならば、私たちにもできると思います。」

私は「空間の創造主」にお願いして、地球のすぐ横に、闇のドラゴン達を收容するための特別な空間を作ってもらい、そこにゲートをつなげ、闇のドラゴンを招き入れることにしました。

このゲートを使って地球にドラゴン達を送り込む時間に私達も照準を合わせます。

「サイレント・メタル」達が、このゲートの行く先を地球に合わせ、ドラゴン達を送り込んだ直後に、アルクツールス星のリーダーがゲートの行先を変更し、「空間の創造主」が作った空間にゲートの出口が開くようにします。

これはまさに、1~2秒の時間の狂いも許されないことです。

「サイレント・メタル」達は、まだ私達の計画に気づいていないようです。

予定の時間にゲートが起動し、ドラゴン達が次々とそのゲートに吸い込まれていきます。

私達も、すぐにゲートの行先を変更し、新たな空間に出口をセットしなおします。

ゲートから勢いよく出てきたドラゴン達とドラゴンを操る魔法使いたちは、出てきた先が地球ではないことに驚いています。

自分達は地球に出てきて地球を荒らしまわる予定だったのに、出てきた先は地球ではなく、ただの真っ白い空間だったからです。

次々と、ドラゴンと魔法使い達が、その空間の中に現れてきます。

彼等も初めは驚いて、周りを見渡していたのですが、やがて自分達が別の空間に送られてきたことに気づいたようです。

彼等は口々に叫びはじめ、ゲートを通して元の世界に帰ろうとしますが、私達も、全てのドラゴン達が移動し終わったところを見計らって急いでゲートを閉じます。

彼等は、「空間の創造主」が作った空間に閉じ込められました。

そして、闇から生まれたドラゴン達は、光に返していきます。

これで、地球に、強力なドラゴン達が送り込まれることはなくなりました。

地球は大きな危機を回避することが出来たのです。

PART4 エリシタール星人たちの極秘計画

私は、今回の一連の出来事を振り返って、エレナさんに尋ねます。

「私達は、未来から来た地球外生命体を何とか処理できたのですが、考えてみると彼等は、私達の時代よりも 2000 年以上も未来から来ている地球外生命体達ですので、私達よりもはるかに進んだ技術や能力を持っているはずですが、よく私達が、彼等を処理できましたね。」

アシュタールは、同じ時代の中では、この宇宙でも最高クラスの叡智と能力、そして科学技術を持っていることは間違いないと思うのですが、相手は今よりも 2000 年先の未来から来た地球外生命体達です。

私達が考えもつかない能力や技術を持っているに違いないのですが、私達がさほど苦しむことなく彼らを抑えられたのが不思議です。

エレナさんはにっこりとして答えます。

「もちろん、私達や創造主達だけでは、きっと彼らを抑え込むことはできなかったでしょうね。

私達が、彼らがこの時代に入ってくる時期を予測して待っていても、彼等はそのことに気づき簡単に行く先を変えることもできました。

ましてや「サイレント・メタル」の宇宙船を発見しても、私達の方が反対にやられてしまう可能性の方がはるかに大きかったのです。」

「それでは、誰が私達を助けてくれたのですか。

そういえば、あの時エレナさんは、エリシタールの人達の事を言っていましたよね。

エリシタールの人達が「サイレント・メタル」の宇宙船の動力を切ってくれたとか、。」

私は大きな謎の先が見えた様な気がしました。

「TAKESHI さん、そうです。

今回の功労者は、まさにエリシタール星人です。

エリシタール星人がいなければ、未来からきた地球外生命体を処理するどころか、彼らを見つけることもできませんでした。

今回、私達が、地球外生命体を待ち伏せできたのも、彼らの機器にエリシタール星人が介入して、行く先や時間を変更することが出来ないようにしたためでしょう。

そして、彼らのセンサーに私達の姿が映らないように隠してくれたのも彼等です。

そうでなければ、彼等はいち早く私達に気づき、簡単に逃げることも、待ち伏せしている私達を攻撃することもできました。

しかし、最大の危機は「サイレント・メタル」の宇宙船と向かい合ったときでした。

私達は、「サイレント・メタル」の宇宙船から攻撃を受けて、自分達の宇宙船にも大きな被害が出ると覚悟していたのです。

彼等の武力は、私達の物をはるかに上回る攻撃力を持っていました。

しかし、エリシタール星人が、彼らの宇宙船の動力を切って、彼らが攻撃をできないようにしてくれたおかげで、武力衝突は避けることが出来ましたし、誰一人として傷つくことがなく「サイレント・メタル」を逮捕することが出来たのです。」

私も、エレナさんの言葉に謎が解けた思いです。

エリシタール星人が、私達の見えないところで私達を守ってくれたのです。

「私達も、まさか未来から地球外生命体達がやってくるなんて、全く知りませんでした。
私達は、他の地球外生命体達の処理を行う為に TAKESHI さんたちに内緒にして行動することがよくあります。
それは、彼らに私達の動きを知られないためです。
しかし、今回は私達スターピープルにも、このことは知らされていませんでした。
おそらくエリシタール星人と一部の創造主様の極秘計画だったのではないかと思います。
たしかに私達の知らないエネルギーが、TAKESHI さん達に関わってきていたことが数回ありましたが、そのことは私達には調べることが出来ませんでした。
今考えるとそれは「サイレント・メタル」のエネルギーだったのです。
エリシタール星人と一部の創造主達が、その時のエネルギーを逆探知して「サイレント・メタル」の事を調べていたのだと思います。」

「エレナさん、エリシタール星には、たしか私達のスピリットの一部もいたことがありますよね。
エリシタール星とはそれほど進んだ星なのですか。」
「もちろんです。
エリシタール星人は、ただのスターピープルではなく、高次の創造主とも深く関われるスターピープルです。
彼らの知性や科学力は、今の時代のスターピープルでは足元にも及ばないくらいに進んでいます。
だからこそ、2000年後の「サイレント・メタル」にも対抗できたのだと思います。
彼等は、スターピープルや地球外生命体の監督を行うような立場の人々です。
私達アシュタールも、エリシタール星人の指示によって動くこともありますし、私達も彼らの事は非常に尊敬しております。」

「彼等が、この地球に来てアセンションをサポートしてくれたという事は、このような事が起こるという事を事前に察知して、私達では解決できないレベルの問題を解決するために来たという事ですか。」
「おそらくそうでしょうね、彼等が、自分達の星をでて、他の星に来ることは非常に珍しいことです。
それだけ、この地球で起こることが、宇宙全体に大きな影響を与えるという事をエリシタール星人と一部の創造主は知っていたのだと思います。
そして、エリシタール星人のスピリットと深い関係にある皆さんを、地球人としてこの地球に生れさせておいて、地球のアセンションに伴って起きる危機的な出来事を、共に解決できるようにしたのだと思います。
これはおそらく、皆さんのスピリットの本体である「光彩の創造主」様のお考えだと思います。」

私達がそのような話をしているとエリシタール星人が、私達の前に現れてくださいました。
「TAKESHI さん、美樹さん、そしてアシュタールやスターピープルの皆さん、本当にご苦労さまでした。
皆さんが考えていらっしゃるように、未来から来た地球外生命体達、特に「サイレント・メタル」の処理は、本当に重要な事でした。
この時期に、彼らを適正に処理することが出来なければ、地球は後 100 年足らずで「サイレント・メタル」の完全な植民地にされていたことでしょう。
もちろんアセンションも失敗し、地球を基地とした大掛かりな宇宙侵略が行われていたこととされます。
この未来は、皆さんから一切見えないようにしておりましたので、皆さんが気付かなかったのも当然です。
この未来は十分に起こる可能性がありましたが、その未来を皆さんが知る事で「サイレント・メタル」の行動を早める可能性がありましたので、皆さんには隠されておりました。
そして、最も適切な時期を見計らって、皆さんにご協力をいただき処理を行わせていただきました。」

宇宙にはまだまだ皆さんが知らない事や学ばなければならない事がたくさんあります。
今回の事も、地球人にとっては大きな学びとなる事ですが、その学びは、宇宙全体を巻き込むことになり
ますので、今回は止めさせていただきました。
しかし、地球人がそのことに気づかなければ、「サイレント・メタル」は何度でも、この地球にやって来る
ことでしょう。

その時は、地球はすでにアセンションとディセンションを終えていますので、「サイレント・メタル」は、
特定のディセンションした世界にしか関わる事が出来ません。
たとえその世界で、地球人が「サイレント・メタル」に支配されたとしても、その影響は限定されています
ので、私たちは地球人を助けることはしないでしょ。う。
たとえ地球人が、「サイレント・メタル」によって人間兵器にされようとも、それを選択したのはまさに地
球人だからです。

これからの地球人は、どのような世界に行こうとも、自分の選択に責任を持たなければなりません。
それが、皆さんがスターピープルとして成長していくために必要な事なのです。
皆さん地球人は、いまはまだ幼稚園の生徒のようなものです。
地球人としての責任と使命に目覚めていません。
これから皆さんは更に大きな責任と使命に気づくでしょう。
どうかその責任と使命から逃れることなく、しっかりと立ち向かってください。
それが、地球の種族として成長することにつながるのです。」
エリシタール星人は、その言葉を伝えるとにこやかに笑いながら姿を消していきました。

地球では、未来から来た地球外生命体達を処理できたことにより、地球の物理世界の分離がどんどん進むこ
とになります。
おそらく7月の初旬には、ほとんどの世界の分離が行われることでしょう。
エレナさんや地球のアセンション評議会は、今迄の遅れを取り戻すために、地球のエネルギーを高め分離を
急いでいます。

もし未来から来た地球外生命体の影響がなければ、スターピープルとのファースト・コンタクトは、6月中
に行われる予定でしたが、この時点で地球外生命体の処理が終わりましたので、私達はファースト・コンタ
クトに向けて準備を急ぐことにしました。

PART5 「サイレント・メタル」による同時多発攻撃

「サイレント・メタル」や未来から来た地球外生命体の話は、これで終わる予定でしたが、その翌日、様々
な場所から緊急信号が届きました。
最初はクリスタルマスターからです。
私の部屋に置いてある巨大なクリスタルに、クリスタルのマスターの顔が突然浮かび上がります。

「TAKESHI さん、大変です。

クリスタルの宮殿に、皆さんと関係がある人がやってこられましたので、宮殿に入れてさし上げたら、その人と共に、プレデターや「サイレント・メタル」達が一気に押し寄せてきました。

そして多くの貴重なクリスタル達が破壊されてしまったのです。

私達のところだけでなく、セントラルイエスのところや様々な場所が被害にあっているようです。」

巨大クリスタルの側面に人の顔が現れたのも驚きですが、それ以上に何か大変な事が各地で起きているようです。

セントラルイエスのもとに急いでいくと、彼等の図書館も荒らされて、大切な情報がたくさん盗み出されていました。

「TAKESHI さん、私達もクリスタルの宮殿と同じで、昔 TAKESHI さんと一緒に来られた方がいらしたので、少し気にはなったのですが、私達も図書館の中にお通ししました。

するとその人の中に隠れていたプレデターや「サイレント・メタル」によって、この図書館の大切な情報が盗まれてしまったのです。」

そこに物理的な宇宙の創造主であるエンソフも駆けつけてきました。

彼も青ざめた顔をしています。

「これは非常に困ったことになりました。

ここだけでなくいくつもの場所が同時多発的に「サイレント・メタル」達に襲われてしまったようです。

すぐに調べていただけませんか。」

私達は、天の川銀河だけでなく他の銀河や星団の連合体である「ユニバーサル・パレス」に入りました。

ここは以前、私達がアンドロメダ銀河やオリオン星雲の危機を救うために回っていた時、私達が属する宇宙の連合体を作ろうという事で作り上げた場所です。

このパレスでは、東京ドームのような大きな会議場となっており、そこに各銀河や星団のリーダーが集まり、宇宙の中で起きた問題を話し合い解決していきます。

私はパレスの中心に立ちます。

私に来たことを知って多くの銀河や星団の代表達が大急ぎで集まってきています。

パレスには、各銀河や星団の代表達が瞬時に来ることができる転送装置が準備されているので、すぐに集まることが出来ます。

「ユニバーサル・パレスの皆さん、お集まりいただきありがとうございます。

私もアセンションの準備で忙しく、ここに来ることもできず、大変申し訳ありませんでした。

今日は、突然問題がおきました。

それは、2000 年後の未来の地球から来た「サイレント・メタル」と呼ばれる存在が、クリスタルの宮殿やセントラルイエスの図書館に現れました。

クリスタルの宮殿では、貴重なクリスタル達が数体破壊されました。

セントラルイエスの図書館でも、大切な情報が盗まれてしまいました。

もしかしたら、皆さんの銀河や星団の中でも被害にあわれたところがあるのではないかと思い、調べることにしました。」

数 10 名の人達が立ち上がり、自分達の大切な神殿や情報を記録している場所が被害にあったことを伝えて

きました。

それも同じ時間に、神殿が破壊され情報が盗み取られたようです。

おそらく、「サイレント・メタル」は、最初に送ったグループが、私達によって壊滅させられたために、そのターゲットを、宇宙の異なる星々に向けたのでしょう。

いくつかの場所に、未来から宇宙船を派遣して、近くの星の神殿や図書館などの大切な場所を攻撃したようです。

私達は、その対策について検討しました。

スターピープルは、一つ一つの宇宙船が現れた場所を予測して、その時間にさかのぼって捕まえることを主張します。

この方法は、地球ではうまくいきましたが、今回は、宇宙船も数隻現れていますので、一隻ごとにこの仕事を行っても時間がかかります。

私は、ひとつのアイデアを思いつきました。

「記録の創造主」に、2000年後の地球を支配している創造主で「サイレント・メタル」と関係が深い創造主を調べてもらいました。

おそらく、これだけ多発的に「サイレント・メタル」の宇宙船を送り込むことができるのは、創造主以外にありませんので、後ろで操っている創造主が分かると、この問題の解決を早めることができます。

「記録の創造主」が調べ終わったようです。

「TAKESHIさん、考えられる創造主は、地球の光30%台の世界にいる創造主です。

この間が多い世界の創造主の中では、時間と空間を操ることが出来る創造主は限られています。

特に、彼は「サイレント・メタル」を支配する事になる創造主ですので、間違いなく彼の仕業だと思います。」

私達は、創造主の目安がついたところで「光彩の創造主」に尋ねます。

「「光彩の創造主」よ、誰がこの事を計画し、実行したのか、おおよそ見当がつかしました。

私達はこれから、2000年後の未来に行き、この創造主と会って話をしたいと思いますが、あなたはこの創造主に対して処理を行う事が出来ますか。」

「もちろんです。お任せください。」

PART6 「サイレント・メタル」を現代に送り込んだ創造主の野望

私達は、高次元の創造主や創造主警備隊、アシュタールのメンバーとエリシタール星人たちを伴って、2000年後の地球に向かいました。

そこは光30%台の世界だけに、混乱と争いが満ち溢れ、いたるところに戦いのあとが残り、まさに悲惨な状況です。

私達が、入ってきたことに気づいた創造主が、私達の前に立ちはだかります。

「お前たちは誰だ！」

何故勝手に私達の世界に入ってきたのだ。

勝手に入ってきたやつはどうか、知っているのか。」

創造主は、傲慢な態度を表し大声で怒鳴ります。

私は、恐れることなく彼に尋ねます。

「勝手に入ってきたらどうか教えてもらえませんか。」

この創造主は、私達のグループを見て、ただの訪問者ではないことに気づいたようです。

しばらく沈黙して、私達が何のためにこの世界に入ってきたのか、考えているようです。

そして、私達がこの世界に来た理由が分かったのでしょうか、急に態度を変えて話し始めました。

「私は皆さんにお願いがあるのです。

それは、私はもっと力をつけたいと思っています。

この世界は、闇が多く、たくさんの創造主達が互いに争い、悲惨な状況を繰り返しています。

このままでは、この世界は争いが絶えることなく、いつまでたっても変わることがありません。

しかし、私に力があれば、この世界を私が支配し争いを止めさせることが出来るのです。

どうか、私に力を与えてください。」

急に態度が変わった創造主をみて、私達のメンバーも少し呆れ顔です。

「あなたが言いたい事は、自分が力を持てばこの世界の創造主達を打ち破って、この世界の独裁者になれるという事ですか。

だとしたら、この世界はあなたの意のままになるという事ですね。

その為に、あなたは自分の力を強める為に 2015 年と 2016 年の地球に、「サイレント・メタル」を送り込み、自分の支配力を強めたいと思ったのですか。」

創造主は、私の言葉に、顔を曇らせます。

自分がしたことがばれていることが分かったようですが、それでもしらを切りとおします。

「私は、そのようなことはしておりません。

私は、「サイレント・メタル」と呼ばれる者さえも知らないのです。」

「わかりました、あなたは「サイレント・メタル」を、過去の地球に送ったことも、「サイレント・メタル」さえも知らないという事ですね。

それでは、あなたの言葉どおりにしましょう。

「サイレント・メタル」は、あなたとは全く無関係であるとするならば、全て光に返して、その存在はなかったことにしましょう。

そしてもし、あなたが私達に嘘をついているとしたら、たとえ闇の創造主であったとしても、創造主の規範に違反する事なので、あなたの存在も光に帰ることになります。いいですか。」

創造主は、私の言葉に驚いた様子でうろたえています。

「いえ、私はそんなことは聞いておりません。

それは無理な話です。」

私は、何も答えず、ただ創造主を見つめています。

創造主はあきらめたように答えます。

「本当の事を言います。

たしかに過去の地球に「サイレント・メタル」を送ったのは、私です。

しかし、それは、私が力をつけることで、この世界の争いをなくしたいと思ったからです。

私は、この世界の人々の幸福の事を考えているのです。」

「確かにあなたが言う事は間違えていないかもしれませんが、創造主として、過去の世界に介入し歴史を変えるような行いをするという事は、大きな違反となります。

その様な違反行為を平気で行う人が、人々の幸福のために働くなどという事は、まず信じられないことです。あなたは、この規約違反によって、すでに創造主としての立場を失うことになりましたが、よろしいですか。」

「いえ、それは困ります。

私にできることは何でもしますから、どうか許してください。」

創造主は、泣きそうな顔で私達に懇願します。

「それでは、あなたが派遣した「サイレント・メタル」を、派遣した日にさかのぼって戻してください。

「サイレント・メタル」が、2016年の地球に大きな影響を及ぼさないように、自分の力で処理してください。

そうすれば、あなたから時間と空間をコントロールする力は剥奪されますが、創造主としての立場は残すことにしましょう。

「光彩の創造主」よ、それでもよろしいですか。」

「光彩の創造主」は私の問いにうなずいています。

「それでは、闇の世界の創造主よ、「サイレント・メタル」をすぐに呼び戻し、2016年の地球に問題が残らないようにしてください。」

創造主は、私達が見張っている中で、過去に送った自分の部下である「サイレント・メタル」を呼び戻しています。

もちろん、この創造主のいう事を信じているものは誰もいませんが、この光 30%台の世界においては、この創造主も「サイレント・メタル」も必要なようです。

創造主が「サイレント・メタル」を戻し終わると、「光彩の創造主」は、闇の創造主に向かって杖を振り上げ、一筋の光を送ります。

その光は、創造主の体を貫き消えていきましたが、この創造主の能力が大きく落とされていったことは明らかです。

私達は、そのことを確認し、元の世界に変えることにしました。

創造主は、大きなため息をついて、悔しそうに私達を見送っています。

私は自分達の世界に戻りながら、「光彩の創造主」に今回の処理はこれでよかったのかと尋ねます。

「TAKESHIさん、光 30%の世界というのは、今まで大きな力をもって他の人々を苦しめていた人たちが行く世界です。

たとえば、独裁的な国の政治家達やたくさんの人をだました宗教家、複数の人を殺した殺人犯や多くの女性を苦しめた者達が行く世界です。

この世界で、彼等は支配されることの苦しみ、傷つけられたり殺されたりすることの悲しみや恐怖を十分に味わわなければなりません。

そして、このような苦しみを与えることがどれほど罪深いことであるか、という学びを行うまで、この世界にいないといけないのです。

その為に、この世界は、凶悪な者によって支配され、多くの戦争や殺人、抑圧がなければいけないのです。あの創造主も「サイレント・メタル」も、この世界に生きる人に学びを与える為には、必要な存在です。彼は、きっと変わる事はないと思いますが、それでよいのです。それが彼の役割なのですから。」

私達は現代の地球に戻ってきました。

皆さんが待つユニバーサル・パレスに戻ると、皆さんが歓喜の声を上げて私達を迎えてくれます。

「サイレント・メタル」がこの時代に来た時にさかのぼって帰っていったので、皆さんの宇宙に与えられたダメージも消えていったようです。

多くのマスター達が、安心しています。

地球がこれからアセンションを行う時、いくつかの星々や銀河も共にアセンションを迎えることとなります。ユニバーサル・パレスに集う仲間達の多くも、今大切な時期を過ごしているのです。

このような不測の出来事はできうる限りなくさなければなりません。

クリスタルのマスター達もセントラルイエスの図書館も、元に戻ったようです。

これで、私達の世界も一安心です。

闇が深い世界の創造主や地球外生命体達も、今回の事をきっとどこかで見ていたはずです。

おそらく、2016年の地球にやってきて、地球を支配しようと思っても困難な事であると理解して、これ以上、私達に手を出してこなくなるのではないかと思います。

これでようやく、私達もアセンションとファースト・コンタクトに向けて本格的な動きができるようになります。

その夜はとても美しい月夜でした。

月を見ていた美樹さんが、新たな輝夜族の到来に気づきました。

彼女たちを、私達の部屋に呼んで話しをすると、彼女達は、アセンションを前にして、人々の心を安らがせ満ち足りたものにするために偉大なる創造主がお作りになられた存在のようです。

ここから、私達の新たな物語が始まるようです。

2016年6月26日

第6章 ディセンションした世界の創造主の反乱

PART1 プレデター型生命体からの SOS

これでゆっくりとした日が過ごせると思っていたのですが、その思いはすぐに打ち破られてしまいました。美樹さんがその翌日、鮮明な夢の中で、私達に助けを求める声を耳にしたのです。

そして、その声を発したのは、プレデター型生命体の一人でした。

プレデター型生命体は、核兵器が使用された未来や原子力発電所が事故を起こし放射能が大量に放出された地球の未来の人々です。

彼等は放射能によって汚染された世界を生き抜くために、自分達の遺伝子を放射能に強いレプテリアンなどの遺伝子と融合させて、新しい人類を作ったのです。

プレデター型生命体が存在している地球は光 45%の世界から光 55%の世界までいくつもあります。

彼等は、地球人としてアセンションした地球にもディセンションした地球にも存在しています。

ディセンションした光が少ない地球では、彼らは好んで戦争や争いを行い、地球に住む他の人々を苦しめ、自然破壊を行い続けています。

しかし光 51%以上の世界に存在しているプレデター型生命体は、地球が核兵器や原子力発電の放射能におびやかされることを少しでも食い止めようと働いています。

もし放射能が地球に放出されることを防ぐことが出来たなら、自分達はレプテリアン種との遺伝子交配を行う必用がなく、純粋な人類として未来を生き延びることが出来るからです。

今朝、私達が見た夢は、核兵器や原子力発電に反対する人や核を推し進める政治家に反対する人たちが、1人ずつ消されていく夢でした。

現実世界でも、すでにこのような事は起こっており、世界中の尊い人の命が失われていると、プレデター型生命体は伝えてきます。

そして、このことはあまりにも残酷で悲惨な世界を生み出すために、ぜひ止めてほしいという事を私達にお願いしに来たのです。

私はすぐに仲間を集めて調査を行います。

まず、この救援を求めてきたプレデター型生命体を使って、彼がつながっている者達を調べます。

そこには、核兵器や原子力発電所にたいして反対運動をしている人達のスピリットを捕え虐待している地球外生命体達の姿がありました。

地球を闇の存在達から救い出すために、一生懸命に活動している人々が、彼らによって消されていくことは、光の地球にとっては大きな損失です。

プレデター型生命体よりもさらに凶悪な姿をした存在達は、プレデター型生命体に対しても支配的で横暴な態度を取り、自分達に従わないものに対しては、大変な虐待を行っています。

先ほどのプレデター型生命体は、地球の人達はもちろん自分達にも危害を加えるこの地球外生命体達を、これからの地球にとって、とても危険な存在になると感じた為に、私達に救援を願い出たのでしょ

私達は、アシユートルのエレナさんに彼らの事を尋ねました。

エレナさんは緊張した面持ちで答えます。

「彼等は、この時代の生命体ではないようです。

ましてや地球に存在している生命体でもありません。

彼等は、強靱な肉体と高度な支配力、残忍な精神を持ち合わせていますので、非常に危険です。

光と闇の境界にいる人達を使って政治的な力をつけ、光の世界に存在する人達にまで闇の力を伸ばしてきています。

彼らによって光の世界に行く人達がどんどん捕らわれているようです。」

この地球に生きる人達でも光の世界に行く人達は決して多くありません。

その中でも、核兵器や原発、人種差別や国家的な侵略などに対して、自分の危険性を顧みず戦い続けた人達は、強い光を持って戦い抜いてきた事を賞賛され、光の世界に入っていくことが出来ます。

それも光60%以上のとても高い光の世界に入り、これからも地球の指導者として活躍が期待されているのです。

今回現れてきた地球外生命体は、主にそのような人々を捕え、光を奪っていきます。

そうすることで、光の地球から、核兵器や原子力発電、国家的な侵略などに反対する勢力を抑え込み、この地球を闇が多い地球へと変えていくのです。

しかし、光を持つ人々を傷つけ光を奪う事は、私達が定めたエイリアン法によって固く禁じられていますので、彼らは明らかに法を犯していることになります。

また未来から来て、過去の歴史を変えることも重大な犯罪です。

彼らを放っておくならば、アセンションにも大きな影響がでて未来が大きく変わる事でしょう。

創造主達にも、この地球外生命体の事を調べてもらいました。

彼等を派遣したのが、サイレント・メタルを派遣した創造主と同一であれば、彼ら进行处理するだけで済むのですが、もし他の創造主が関わっていれば、また未来へと行かなければなりません。

「記録の創造主」と「予測の創造主」が彼らの事を調べています。

「TAKESHIさん、どの創造主の仕業か分かりました。

彼等は光30%台の世界の者達ですが、およそ2500年先の未来から来ていますので、前回の創造主とは異なる創造主のようです。

今回、地球外生命体を送り込んできた創造主は、光30%台の世界で、すでに実権を握っているようです。」

これはまた厄介なことになりそうなので、なるべく早いうちに処理したほうがよさそうです。

私は、宇宙警備隊に連絡して、この地球外生命体を1体捕えてもらいました。

彼等は強力な力を持っているので、特別な檻の中に入れ、しっかりと警備して私達の船に載せます。

今回は、彼等が、私達の時代に介入している証拠を持参して、未来へ行くことにします。

私は、最高次元の創造主である「光彩の創造主」にも来てもらい、これから2500年先の未来に行く事をつたえ、未来の創造主に対して処理を行っていただけるかお聞きしました。

「光彩の創造主」は私達の前に現れます。すでに事情は分かっているようです。

「TAKESHI さん、今回の件は皆さんが思っているよりも、さらに厄介な問題を含んでいますので、私もお手伝いしましょう。」と、「光彩の創造主」は答えます。

私達は、フェニックス号に乗り、未来へと旅立ちました。

PART2 光 30%の世界を統括する創造主

私達は、フェニックス号で 2500 年先の未来に向かいます。

混乱や争いに満ち溢れた世界ですので、あまり気が進む場所ではありませんが、このような世界から、私達の世界に地球外生命体を送ってきている理由を突き止めなければなりません。

私達の宇宙船が、時をこえて西暦 4500 年の世界についていたようです。

私達が宇宙船を降りると、この世界の創造主がすぐに気づいたようです、彼の方からやってきてくれました。西暦 4000 年の時代に、私達がこの世界の創造主を処理したことを知っているのでしょうか、彼は丁寧な言葉で私達に接します。

「皆さんは、何の用があってこの世界にいらしたのですか。

この世界は順調に管理されており、問題はありませんが。」

私達も彼にあいさつすると、

「そのようですね、実は 2016 年の世界に見慣れない地球外生命体が来ていたので、調べてみるとこの時代から来ているようですが、そのことについてお聞きしたいと思いやってきました。」

創造主は、地球外生命体をちらりと一瞥するといいました。

「確かに彼らは、この世界に存在している地球外生命体ですが、どうかしましたか。」

私は、創造主が当たり障りのない返答をしてくることに少し不快な思いを感じていますが、怒ってもしょうがないので、ここは腹の探りあいです。

「この地球外生命体は、2016 年の世界で、光ある存在達を捉えていたようですが、それはその時代の法律に大きく違反する事なのです。

地球外生命体を調べてみたら、あなたが送り込んだのではないかと思ひまして、尋ねてみました。」

創造主は涼しい顔で答えます。

「確かに、私が送り込みましたが、私はこの者達に 2016 年の時代を調査してくるようには言っただけです。」

「この地球外生命体は、光ある人間だけでなくプレデター型生命体にも暴虐な行為をしていたようですが、それはあなたが命じたことではないのですか。」

「いえ、私はそのようなことなど命じません。

彼等は調査が得意なので、いつもやっていることをやるように命じました。」

私は創造主を見つめて言いました。

「それでは、あなたは、地球外生命体達に、調査以外の事は命じていないという事ですね。

それ以外の命令をしていたならば、私達に対して、創造主として嘘を言ったことになりしますので厳重な処罰を受けてもらいますが、いいですね。」

創造主は、気まずい雰囲気になってきたことを感じたようです。

私達が捕まえた地球外生命体が何か重要なことを私達に漏らしたのではないかと気にしているようです。

「私は、あくまでも地球の調査のために、彼らを遣わしたのですから、彼らがそこで何をしたのかはよく知りません。

何か問題が起きたとすれば、それは私ではなくこの地球外生命体の責任ではないですか、」

創造主は、今度は自己弁護をはじめました。

「それでは、創造主よ、あなたがこの地球外生命体を 2016 年の地球に送った時に戻りましょう。

その時にどのような指示を彼らに出したのか、調べましょう。」

私は、創造主をフェニックス号に案内すると、創造主に彼らを地球に派遣した時を聞きます。

創造主は、最初は口を閉じて答えようとしませんでした。周りを囲む光の創造主達に圧倒されて、その時を答えました。

フェニックス号の船長は、その言葉を聴くとすぐにフェニックス号をその時間に向かわせます。

その時間につくと、確かに光 30% 台の創造主が、時を超えることが出来る宇宙船の前で、たくさんの地球外生命体に対して命令を出しています。

しかし、その命令は創造主が言うように、2016 年の地球を調査してくるようという命令とは異なっているようです。

その時の創造主は、その当時、核兵器や戦争などに反対している人を捕えて始末するように命令しています。そして、地球を更なる戦争に駆り立て、核兵器を使用することで、地球のアセンションを妨害し、光が少ない地球の領域を大きく広げるための活動を行うように地球外生命体に命令しているのです。

この時の状況を私達に見られた創造主は、私達を何とか抑え込めないかと考え、様々な言い訳をしてくまひし、精神波を私達の脳波に送り込んできますが、通用するはずありません。

「あなたが、私達に言った事とここで地球外生命体達に命令した事はまるっきり違いますね。

つまり、あなた自身が、2016 年の地球に介入し、戦争や核兵器の使用を起こさせ、闇が多い世界を作ろうとしたのですね。」

闇の創造主は、私達の言葉に答えようとしません。

「あなたは、この時代の地球を操作することで、未来の自分達の世界を広げようとしたのですね。

あなたは、私達に嘘を言った上に、過去の世界に介入した罪に問われます。」

私は「光彩の創造主」を振り返り、彼の処理をお願いします。といいました。

「光彩の創造主」も、私達のやり取りを見ていて、光 30% の世界の創造主に、限界を感じているようです。

「闇の世界の創造主よ、私達は、あなた方が、闇の多い世界に対して適切な管理をしてくれるものと思っていました。

地球の人々が、この世界で、争う事の無意味さ、人を傷つけることの苦しさを学び、少しでも成長するように、あなた方創造主にこの世界を託したのです。

しかしあなた方は、人々に学びを与えるどころか、自分自身がさらに闇を深くする行為をしておきながら、その行いを認めようとはしません。

あなた方が創造主として存在することで、この世界は更に闇が深い世界となります。

私達は、たとえ闇の世界であったとしても、あなたにこの世界を任せることはできません。

光に戻してこの世界から立ち去らせることにしましょう。」

私達が見つめる前で「光彩の創造主」は、大きく杖を振り上げ、光 30%の世界の創造主にむかって杖を振り下ろします。

光 30%台の創造主の体を白銀の光が貫くと、創造主は光の中に消えていきます。

そして、この時点で地球外生命体達を 2016 年の世界に送り込もうとしている創造主も消えていきますので、あの残忍な地球外生命体は、2016 年の世界に来ることがなくなりますので、彼らに捕えられた光の存在達も、彼等に捕えられるという事がなくなり開放されていきます。

私達は安心して 2016 年の世界に戻ります。

PART3 荒れ狂う闇のドラゴン達

しかし問題は、簡単にはすみませんでした。

この問題が発覚してから、私が住む鹿児島から九州にかけては、大変な大雨で土砂崩れも起きています。

この異常気象を知らべるとやはり地球外生命体達が関与していました。

日本の各地の空に、小型の宇宙船がたくさん浮かんでいるのです。

捕まえて調べてみると、先日処理した創造主によって派遣されたグレイ種の宇宙船です。

彼等は、日本の上に大きな雨雲をよび、雨を降らしているようです。

その様な時に、突然仲間のスターピープルから連絡が入りました。

日本の各地に、闇のドラゴンと魔法使いたちが多数現れてきているという情報です。

私達は急いで地球のコアに入り、地球のコアを守っているエルエル達に異常がないか調べに行きました。

地球のコアを守るエルエル達も、闇のドラゴンと交戦中です。

私達は高次元のシェンロン達を呼び出し応戦します。

地球のドラゴンの様子を調べる為に、地球のドラゴン達を統括するドラゴンマスターを呼び出します。

「TAKESHI さん、また不意打ちを食らいました。

本当に彼等は音もなくやってきます。

地球のドラゴン達も驚いて逃げまどっています。」

私はマスターに、このドラゴン達がどこから来たのかを聴きました。

「おそらく、ドラゴン達と一緒に魔法使いたちもたくさん来ているところからすると、アルクツールスの連中ではないかと思われませんが・・・」

私はすぐに魔法使いマリーンを呼び出します。

彼はアルクツールスの出身なので、ディセンションしたアルクツールスに関する事も良く知っています。

「確かに、彼等はアルクツールスの闇のドラゴン達ですし、一緒に来ている連中もアルクツールスのディセンションした星の魔法使い達でしょう。

彼等は、昨日皆さんによって多くのドラゴン達が捕まえられ光に返されたことで、皆さんに復讐をしようと

考えているようです。

その為に、前回よりも強力なドラゴン達を目覚めさせ、襲ってきたようです。

先ほど見つけたグレイ種の宇宙船は、このドラゴン達が地球にやってくる時に、皆さんにばれないように、雨雲を呼び寄せ、ドラゴン達の姿を雲で隠していたのでしょうか。」

「マリーンよ、今回このタイミングでドラゴン達が地球に現れたのは、何を地球でしようと思っていたのですか。」

「おそらく、先ほど処理した光 30%の世界の創造主と協力して大きな企てを計画していたようです。その目的までは、私にはわからないのですが。」

私達はまず、このアルクツールズのドラゴン達の処理を行う事にしましたが、彼等は通常のドラゴンと異なり魔法力を使うので厄介です。

ドラゴンによっては姿を隠して動いています。

また自分達と波長が合う人間の中にもぐりこみ同化しているドラゴンもいるようです。

今回も、闇の創造主は、地球に生きている人達の欲望に狙いをつけ、人々がドラゴンに対する祈りを行うように仕向けたようです。

そして、その人達が行った祈りに乗じて、ドラゴン達を地球の物理世界に送り込んできたのです。

私達は、地球のドラゴンだけでなく高次の世界に存在するシェンロン達にも協力してもらい、創造主警備隊達と共に、このドラゴン達を処理し始めました。

人と一体化していないスピリチュアルレベルのドラゴンや魔法使い達は、創造主の光によって、光に帰すことができますが、人と同化しているドラゴン達は、なかなか捕まえることが出来ません。

その時にアシュタールから連絡が入ります。

「TAKESHI さん、これらのドラゴン達が一齐に地球にきて、地球の物理次元に無理やり入り込もうとしたことで地球の次元が大きくゆがんでしまいました。

その歪みが修正されない事には、地球の分離を行っていく事はもちろんアセンションも難しくなります。」
どうやら闇の創造主の本当の目的は地球の物理次元に大きなゆがみを作り、アセンションを妨げることのようにです。

大量のドラゴンを一度に地球の物理世界に送り込むことで、地球の地軸に歪みを生じさせ、地球の次元を保つエネルギーを混乱させることを狙ったようです。

そうすることで、地球のアセンションが行ってきた、地球の物理世界の分離の枠が壊れ、いくつもの世界に入り込むことが出来るようになります。

その時をねらって、幾種類もの地球外生命体を、光の世界に送り込む企てをしていたようです。

彼等は非常に巧妙にこの事をやり遂げました。

自分達の予想通り、強力なアルクツールズのドラゴン達を、多数送り込むことで次元の裂け目を作りました。しかし、ひとつだけ予想が外れたことは、すでに次元の裂け目が出来たとしても、未来から指示をおこなっていた闇の創造主はすでにここにはいません。

彼等は自分達の意味で、地球に対する攻撃を続けています。

あるいは、この攻撃はしばらく前から行われていた可能性もあります。

光 30%の世界を統治する創造主によって、その行動が隠されていたかもしれません。

物理世界の人々の中に逃げ込んだドラゴン達は、人と一緒に分離していくしかありませんが、スピリチュアルレベルで暴れまわっていたドラゴン達と魔法使い達はやがて捕えられ処理されていきました。

PART4 新たなエイリアン法案

翌日の朝、私達は頭にきりきりとした痛みを感じて目を覚ましました。

調べてみると、肥大したむき出しの脳のような頭をした地球外生命体が私達にサイキックアタックをしかけてきたようです。

この地球外生命体は、特殊な能力を使って人の思考をコントロールすることが出来る存在のようです。

私達は、この地球外生命体になぜこのような事をしているのか問いました。

「あなた方は、私達の仲間を次々と処理し、私達の計画を妨害しました。

だから、私はあなた方に攻撃をしています。」

あまりにも正直でシンプルな答えに、私達も戸惑いました。

この地球外生命体も、2500年先の創造主から、現代の地球に送られてきた地球外生命体で、主に人々の意識や思考をコントロールすることを目的としています。

政治や経済的に立場の強い人たちの意識をコントロールして、未来の創造主の意思に従わせることが目的のようです。

そして日本の選挙などでも多数派をとり、原発や核兵器の開発を行い、地球を悲惨な戦争や自然破壊の状態に導こうと考えているようです。

しかし、自分達と一緒に来たプレデター型生命体や残忍な地球外生命体もアルクツールズの魔法使い達も、私達に処理されていなくなったことに、怒りと孤独感を覚えているようです。

そして自分達だけでは、この地球を変えることが出来ないのです。私達の意識をコントロールしようと思ひ、私達にサイキックアタックを仕掛けてきたようです。

見かけから、大したこともないだろうと思っていましたが、彼らの精神攻撃はすさまじい物でした、美樹さんも、一時的に頭がマヒした様な感覚で意識がなくなりそうになっています。

私はすぐに「分離の創造主」にお願いしてエネルギーを分離し、アシュタールにこの存在を処理してもらいます。

私達はここで、地球にやってきた地球外生命体達に対してもう一度考え直さなければなりません。

地球は今、アセンションを前にして、地球外生命体達や創造主が、他の宇宙から勝手に地球に入ることが出来ないようになっています。

しかし地球の未来からは、未来に存在する創造主達を経由して入ってくる事が出来たようです。

しかも、スピリチュアルレベルにある地球外生命体は捕えて処理することが出来ますが、人間の中に入り込み同一化した地球外生命体達は、人間の同意がなくては取り除くことが出来ません。

しかし人間は、地球外生命体が自分の中に入り込むことによって、特別な力や能力を得ることが出来るので、人間自身が、地球外生命体と深く同化してしまう事を望んでいるのです。

このようにして地球人の内側に入り込んだ地球外生命体は、その人を利用して他の人に関わり、他の人々をコントロールする事をはじめてしまいます。

なかには、力をもった政治家や経済人達もいますので、彼等を通してさらに多くの人達がコントロールを受けられるようになります。

あるいは、光の世界に行く人々のスピリットを捕え光を奪う事も行っています。

彼等を放置しておく事はとても危険なので、彼等を何とか抑え込まないといけません、その方法は、その人ごと世界を分離する方法しか今までありませんでした。

しかし、それでは彼等が分離されていった世界が、ますます凶悪になり、今回のように未来から過去の地球に入り込むといったことがこれからも繰り返されることになります。

私達は、その対策のために、新たなエイリアン法を作ることにしました。

それは、人々の中に入り、その人を利用して、他の人々に悪い影響を与える地球外生命体を取り締まるための法律です。

私は次のように、スターピープル達に提唱してみました。

「地球の物理世界に降りてきた人間は、自分のスピリットの能力や知識、目的をすべて忘れて、白紙の状態、多くの事を学び成長することになっています。

それが地球のルールで、人類はすべてそのルールの適用を受けています。

たとえ、地球外生命体であったとしても、地球の物理次元に入ってきたのですから、同じような地球のルールを適用することにしましょう。

つまり、地球外生命体であっても、地球に生きる人々の体や意識の中にはいりこんできた存在は、地球の人間と同じ存在とみなし、その存在のスピリットが持つ能力や知識、目的などは一切忘れ去り、現実生活で使用できないこととする。

ただし、創造主の意図で地球に降り立った者達はこのルールから除外する。」

私の提案にスターピープル達も、納得しています。

「その法律は、理論的でしかも自然です。

地球が学びの世界としてのルールを持っているので、そのルールを彼等にも適用することは非常に合理的です。

これで、ディセンションした世界においても彼等が自由に行動する事を妨げることが出来ると思いますので、地球の未来や他の宇宙から、地球外生命体がやってきて地球を侵略することもなくなるでしょう。」

多くのスターピープル達が喜んでいます。

私は、「では今から、この法律を施行することにします。」といったのですが、しばらく考えています。

この法律が施行されたなら、他の世界から来た地球外生命体達は、自分達の星に帰ることが出来なくなりません。

たとえ彼等の星がディセンションした世界であったとしても、そこには家族や仲間たちもいることでしょう。

私は、この法律が実行されるまで1日の猶予期間を設けることにしました。

この1日の間に、自分達の星へ帰る者達は帰っていくことができます。

このまま地球に残っていれば記憶喪失のまま地球に取り残されてしまいます。

それは彼等にすれば孤独であり、残酷な事でもありますので、自分達の星に帰る選択も残してあげなければなりません。

アシュタールやスターピープルによって、このエイリアン法がすべての地球に公布されました。

地球の様々な場所から、宇宙に向かって光りが飛び出していきます。

私達は、彼らの宇宙船が、地球から出ていけるように、地球のゲートを開きます。

多くの地球外生命体達が、地球を後にして帰っていきましたが、帰る星を持たない地球外生命達は、そのまま人間と同化して地球に残るようです。

あらたなエイリアン法案が出来てから、地球人に同化して、私達を苦しめていた地球外生命体達は、その姿を消しつつあります。

まだ地球人と同化して残っているのは、帰る星や自分達の指導者を失った者達やディセンションした星々で地球人の学びを手伝うために残っている地球外生命体達ばかりです。

光の世界をともに作っていくスターピープル達は、地球人と同化することはありません。

お互いの存在を尊重しながら離れた場所から指導しているので、この法律の影響をうけることはないのです。

私達は、これで今まで悩まされた多くの地球外生命体からのサイキックアタックも受けることがなくなるのではないかと考えています。

PART5 未来から来た創造主の最後の抵抗

私達が、エイリアン法を作ってから、地球はまた大きく変わってきました。

地球の物理次元がどんどん分離を進めていきます。

そして多くのスターピープル達が地球にやってきて、それぞれの活動をはじめました。

地球のエネルギーが活性化し、波動が高まると共に、人々の心の中から怒りや憎しみなどの古いエネルギーがどんどん排出されていきます。

そのエネルギーが、今地上の中にたくさんたまりこんでしまっているのです。

私達は、この地上のエネルギーの浄化を行う為に、「愛と浄化の創造主」に光を送ってもらうようお願いしました。

ところが、私達の前にあらわれた「愛と浄化の創造主」の様子がおかしいのです。

どうも元気がないというか、存在感が薄い感じがします。

調べてみると、彼女の一部がどこかに捕らわれているようです。

急いで探してみると、未来の地球のディセンションした世界の創造主達に捕らわれているようです。

私達は、「愛と浄化の創造主」に異変が起こったと思われる時を探しました。

すると未来のディセンションした世界の創造主達が出てくる時までは、問題はなかったようです。

どうやらサイレント・メタルを処理している時に、彼女に異変が起こったことを、彼女と共に活動している

創造主が伝えてきます。

私達は時間を数日さかのぼり、サイレント・メタルとの戦いの時まで戻ります。

そして、「愛と浄化の創造主」の様子をずっと見守ることにしました。

すると、サイレント・メタルとの戦いが終わり、大喜びしている時に「愛と浄化の創造主」の周りを光が包み込む瞬間がありました。

この時を良く見ると、「愛と浄化の創造主」の周りの空間が揺らぎ、そこから通常ではない光が「愛と浄化の創造主」の体を貫き通しています。

この時に「愛と浄化の創造主」のスピリットの一部がとらわれたようです。

私達は、この時間を確認すると、この時間に創造主警備隊を配置し待ち伏せをします。

再度、光が「愛と浄化の創造主」の体を貫きとおした瞬間、創造主警備隊はその光を捕え、揺らいだ空間から闇の創造主を引っ張り出します。

驚いたのは闇の創造主です。

いるはずもない警備隊がそこにいて自分を捕まえたのですから。

私達は、彼が 2500 年先の未来から来たことも突き止めました。

私達は、創造主になぜこのような事をしたのか問いたします。

「私は、「愛と浄化の創造主」がいなければ、この世界がもっと闇にまみれて、私達の世界が広がると思っていました。

「愛と浄化の創造主」は、私達の世界にとって邪魔な存在です。」

私は彼に、創造主である以上、他の創造主に対して暴力的な行いをしたり傷つけたりすることは禁じられていることを諭しましたが、彼等はもうすでに、自分達の世界の事しか考えていません。

自分達の世界を広げるためには、何をしてもよいと考えているようです。

おそらくこのことは彼一人ではなく他の創造主も力を合わせて行っていると思われます。

私達は、「光彩の創造主」を中心に光の創造主達で未来の世界に向かう事にしました。

2500 年先の未来、それもディセンションした世界につくと、彼と共に 2016 年の地球に介入する計画を立てた創造主達を全て呼び集めました。

10 数人の創造主が、不機嫌そうな顔をして集まりました。

それぞれが、何が起こったんだ、とぶつぶつと文句を言っています。

「あなた方は、たとえディセンションした世界であっても立派な創造主です。

その世界に生きる人々を導き進化させていくことが、あなた方の尊い役目ですが、あなた方は、2016 年に来て、地球外生命体達を使い、その時代の人々を捕えて利用しようとしてしました。

その当時生きていた人々に対して精神のコントロールを行い、自分達にとって都合の良い未来になるように、過去を作り変えようとしてしました。

それは、決して許されないことです。

なぜ皆さんはそのようなことをしたのですか。」

創造主の一人が、私の前に出てきて言います。

「私達は、この世界が他の世界と交流できないように隔離された狭い世界だという事を知っています。私達はもっと自由が欲しいのです。もっと大きな世界で自由に活動し、好きなように世界を創造したいのですが、この世界はあまりにも小さく、争いばかりの醜い世界です。私達創造主をこのような場所におしこめること自体がおかしいのです。私達は、自分達の権利として、この世界を広げ、もっと自由な世界にしたいと思い、この計画を立てました。」

「あなた方がいう事も理に適っているかもしれませんが。しかしこの世界は理由があって隔離されていますが、決して成長しないわけではありません。皆さんたち創造主が、ここで多くの事を学び成長する為に用意されている世界です。そのことを理解して、世界を統治すれば、必ず素晴らしい世界になると思います。」

光 30%の世界の創造主は、私が言う事を認めようとしません。「皆さんは、光の創造主として活躍できるからそのようなことが言えるのです。私達の世界に来て、ここを統治しろと言ったらきっと嫌がるでしょう。私達も同じです、私達をもっと自由な世界へときはなってください。」

「しかし、皆さんが行ったことは、創造主としてあるまじき行為です。他の創造主を傷つける事、自分の統治する世界を広げるために、過去の世界に介入する事、光ある存在の光を奪う事、どれ一つとっても許されるべきことではありません。その様な事を行うものは創造主として認める訳にはいきませんので、他の世界に送り込むことは私にはできません。」

話はどんどんすれ違っていきます。私は、彼等を統括する創造主を呼び出すことにしました。威厳のある創造主が私達の前に現れます。「偉大なる創造主よ、私達は光 30%の世界の創造主が、2016年の地球で創造主を傷つけたり、地球の人々のマインドコントロールなどを行った事に対して反省を求めているのですが、彼等は自分達の世界を拡大する為に必要なことだと言い張っています。あなたはどのように思われますか。」

「光 30%の世界を統括する創造主」は大変申し訳なさそうな顔をして答えます。「2016年の地球から来られた皆さん、私どもの創造主が大変ご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。彼等が本当に勝手なことをしてしまい、皆さんの世界を混乱させてしまったことは許されるべきことではないと思っておりますので、私も彼等に対して処罰を与えたいと思っております。」創造主達がお互い顔を見あわせて「それはないだろう」という顔をしています。

私は、「光 30%の世界を統括する創造主」に尋ねます。「この件に関して、あなたが創造主達に指令を出したことはありませんか。」「いえ、とんでもありません。彼等が勝手にやったことですので・・・」「光 30%の世界を統括する創造主」は、言葉を詰まらせます。

闇の世界の創造主達は、自分達が裏切られたことを怒っています。

「それでは、「光 30%の世界を統括する創造主」よ、あなたがこの件に関わっていないのならば、「光彩の創造主」の前で誓約を行ってもらってもよいですか。

もしあなたが、嘘の誓約を行ったならば、創造主として一番重たい罰が与えられることはご存じだと思いますが・・・」

「光 30%の世界を統括する創造主」は、あからさまに「しまった！」という顔をしています。

しばらくの沈黙が流れた後、「光 30%の世界を統括する創造主」は、あきらめたかのように言います。

「皆さん、本当に申し訳ありませんでした。

この件は、私がこの世界の創造主達と相談して行ったことですので、私が指令を出したという事になるでしょう。

私は、この暗く閉ざされた世界から出たかったのです。

そしてもっと力をつけ大きな創造主になりたかったのです。」

「光 30%の世界を統括する創造主」の話聞いていた「光彩の創造主」が立ち上がります。

「創造主の皆さん、私達はあえて皆さんをこの世界の創造主として任命しました。

皆さんの中には、多くのエゴがあり欲望があります。

創造主としての倫理に反しても自由に行動したいという野心があります。

皆さんが、そのような考えを持っている以上、皆さんは光の創造主にはなれません。

この光 30%台の世界に送られてきた人達を見て、自分達がなぜ、このような世界の統治を任されたのかを知る事が皆さんの学びです。

そして、この世界を統治する創造主として、この世界に来たわがままで欲望だらけの人間達を指導し、立派な人間にしていくことが、あなた達の務めです。

しかし、皆さんは、創造主としての務めを果たすどころか、そこに来た人々の気持ちに追従し、他の創造主や過去の人々を傷つける愚かな存在に成り下がってしまいました。

皆さんは、すでに創造主としての資質を失っています。

皆さんをこれ以上、創造主として存在させるわけにはいきませんので、すべての創造主を光に返したいと思えます。」

「光彩の創造主」の威厳のある言葉に、誰もはむかうものはいません。

私はその前に、私達の考えを理解して、私達と共に歩む創造主はいないかと尋ねました。

すると一人の創造主が手を挙げ、私達と共に働きたいと喋ってきました。

私達は、その創造主を除き、他の創造主達を光に返していきます。

「光 30%の世界を統括する創造主」をはじめ、多くの創造主が光の中に吸い込まれていきました。

さて私達は、のこされたたった一人の創造主に向かって言いました。

「あなたは勇気がある創造主です。

きっとこれから、この世界をしっかりと統治していけることでしょう。

私達は、この光 30%の世界を少し縮小するとともに、新たな創造主を加えて、この世界を適正な学びの世界にしましょう。

光と闇の統合の創造主、陰陽の統合の創造主、愛と浄化の創造主、そして太陽の創造主と月の創造主、皆さんから分身をつくりだし、この世界の創造主として統治をおこなわせてください。」

私から名前を呼ばれた創造主は、自分自身を大きな輝きでつつみ、自分自身の分身である創造主を作りあげました。

まだ生まれたての純粋な意識を持つ創造主達は、この世界を統治しながら、多くの事を学んでいくでしょう。そして闇が多い世界ではありますが、やがて一人一人の意識を目覚めさせ、少しずつ光が大きな世界を人々と一緒に作り上げていくことでしょう。

私達は、彼等にこの世界をゆだねて、2016年に戻る事にしました。